

十六日聯合艦隊司令長官東郷平八郎ニ、左ノ勅語ヲ賜フ、
聯合艦隊ハ旅順口ニ迫リ敵艦ヲ沈メ偉功ヲ奏セリ
朕甚々之ヲ嘉尚ス

東郷聯合艦隊司令長官ハ、同日右勅語ニ對シ、左ノ奉答文ヲ捧ク、
今回旅順口攻撃ニ於ケル聯合艦隊ノ奏功ノ如キハ一ニ
陛下ノ御威徳ニ依ルモノニシテ臣等人力ノ及フ所ニアラス然ルニ又
優渥ナル
勅語ヲ賜ハリ臣等恐懼ニ堪ヘス尙ホ益精勵殘敵ヲ剿滅センコトヲ期
ス
右謹ンテ奏ス

第十章 旅順口第三回閉塞

第一節 行動前ニ於ル艦隊ノ動作

第一目 海州邑方面

東郷聯合艦隊司令長官ハ、旅順口第七次、第八次攻撃ヲ終リテ、四月十六日海
州邑ナル第二地點ニ歸著セシカ、敵ハ其ノ司令長官ト共ニ、一戰艦、一驅逐艦
ヲ失ヒテ士氣大ニ沮ミ、當分出動ノ勇氣ナカルヘキヲ察シ、目下遼東方面ニ
集中セントスル形勢アル敵ノ陸軍ヲ浦鹽方面ニ牽制シ、尙好機アラハ、同方
面ニ在ル敵艦隊ヲ擊滅セシカ爲メ、上村第二艦隊司令長官ニ向ヒ、第二戰隊
(八雲、淺間ヲ缺)第四戰隊(和泉ヲ)第一驅逐隊、第三艦隊ノ附屬艇隊二隊、日光丸及
(キ春日ヲ加フ)ヒ金州丸ヲ率非テ、急速浦鹽方面ニ向ヒ行動スヘキ旨ヲ訓令シ、(本部第四篇浦
隊ニ對スル)上村司令長官ハ、即日午後六時麾下諸隊ヲ率非テ海州邑ヲ發セリ、鹽斯徳ノ敵艦
作戰參照)翌十七日東郷聯合艦隊司令長官ハ、出羽第一艦隊司令官ニ向ヒ、第三戰隊ヨ
リ一隻ツ、交代シテ、(A)地點(大青島ノ南)ニ哨艦ヲ出スヘキ旨ヲ訓令シ、又香
港丸艦長海軍大佐井上敏夫ニ向ヒ、清國山東省以南ヲ哨戒シテ、膠州灣其ノ
他南清方面ヨリ、戰時禁制品ヲ搭載シテ、遼東ニ赴カントスル船舶ノ臨檢拿

捕ニ從事スヘキヲ訓令シ、尙十八日ニハ、在竹敷片岡第三艦隊司令長官ニ向ヒ、其ノ地ニアル麾下全部ヲ率非、海州邑錨地ニ來ルヘシトノ訓令ヲ發シ、又伊集院軍令部次長ニ向ヒ、代用砲艦トシテ遼東半島ノ淺水海岸ニ使用スヘキ、五百噸内外ニシテ速力十二海里位ノ小汽船四隻ヲ以テ、聯合艦隊ニ附屬セシメラル、様取計ハレンコトヲ電請セリ、

十九日蒼鷹、鶴、鵜修理ノ爲メ、佐世保ニ向ケ出發シ、大島ハ武装變換(十二機比安式十二機砲四門ニ改ム)ノ爲メ、吳ニ回航シ、又濟遠ハ大同江ヨリ、揚武ハ佐世保ヨリ、沖繩丸ハ長崎ヨリ、夫、海州邑ニ入港ス、又嚮ニ聯合艦隊ニ差遣セラレタル侍從武官海軍少將井上良智、東官武官海軍中佐黒水公三郎、同日海州邑ニ來著シ、東郷聯合艦隊司令長官ニ、優渥ナル御沙汰竝ニ恩賜品アリ、

二十日出羽第一艦隊司令官ハ、沖繩丸ノ海底電信敷設事業ヲ掩護シ、且大羊河口附近ニ於ル、陸兵陸揚ケ地點偵察等ノ爲メ、第三戰隊及ヒ第十四艇隊ヲ率非テ出港ス、二十一日片岡第三艦隊司令長官ハ、第五、第六戰隊ヲ率非テ竹敷ヨリ來著シ、濟遠ハ大同江ニ向ヒ出港ス、二十二日東郷司令長官ハ、新ニ第

三艦隊ニ編入(四月二十三日附)セラレタル第六、第十二艇隊ニ海州邑ニ回航スヘキ

旨ヲ電訓シ、又伊東軍令部長ヨリノ訓令ニ依リ、艦隊補缺員搭載ノ爲メ、日本丸、香港丸ニ佐世保ヘ回航ヲ命シ、日本丸ハ即日日出港シ、香港丸ハ哨區ヨリ直航セシム、同日第二、第十、第十六艇隊竹敷ヨリ來著シ、朝鮮海峽方面ニアリシ

第三艦隊全部(臨時上村司令長官麾下ニ屬スルモノヲ除ク)海州邑方面ニ集合ス、二十四日笠置ハ海

洋島方面ニ出動セシ、出羽第一艦隊司令官ヨリノ陸兵陸揚ケ地點ニ關スル報告ヲ齎シテ歸港ス、同日第二軍司令官陸軍大將男爵奧保鞞ハ、東郷聯合艦隊司令長官ト三笠ニ會シ、第二軍陸揚ケニ關シテ協議シ、翌二十五日東郷司令長官ハ、第二軍輸送計畫書(本部第三篇陸軍ト共同作戰參照)ヲ發布セリ、二十六日曩ニ上陸地點探査ノ爲メ、派遣セラレタル、第三戰隊及ヒ第十四艇隊海洋島方面ヨリ歸著シ、二十七日第一艦隊司令官海軍少將梨羽時起ハ、敵狀偵察ノ命ヲ受ケ、第一戰隊ノ第二小隊及ヒ八雲、龍田、第三、第四、第五驅逐隊ヲ率非テ、旅順口方面ニ向ヒ出港ス、二十八日東郷聯合艦隊司令長官ハ、片岡第三艦隊司令長官ニ向ヒ、第二軍輸送船隊ノ警護竝ニ陸揚ケ地點ノ警戒等ニ關スル命令(本部第三

篇陸軍トノ共)第三艦隊司令官海軍少將細谷資氏ニ向ヒ、陸戰隊ヲ以テ上陸地點ノ占領竝ニ陸兵陸揚ケ援助等ニ關スル命令(本部第三篇陸軍トノ共同作戰參照)艦隊集合地點港務部長海軍少將三浦功ニ向ヒ、鹽大澳ノ防材設置竝ニ裏長山列島泊地ノ搜海等ニ關スル訓令(本部第三篇陸軍トノ共同作戰參照)ヲ與ヘ、又海門艦長海軍中佐高橋守道及ヒ磐城艦長海軍中佐山澄太郎三ニ向ヒ、輸送船隊泊地ノ測量、航路浮標ノ設置等ニ關スル訓令(本部第三篇陸軍トノ共同作戰參照)ヲ與フ、二十九日旅順方面偵察ニ赴キタル、梨羽第一艦隊司令官引率ノ枝隊歸著シ、又香港丸、日本丸及ヒ第九艇隊ハ佐世保ヨリ、筑紫ハ閉塞隊員ニ撰拔セラレタル者ヲ載セテ大同江ヨリ各入港ス同日第三次閉塞船隊準備完成セシヲ以テ、之カ乘員編制表ヲ發布ス、三十日大島ハ、大砲ノ換裝ヲ終ヘテ吳ヨリ、第二十一艇隊(四月十七日第三篇陸軍ニ編入)ハ舞鶴ヨリ、各入港シ、香港丸、日本丸ハ第三艦隊ヨリ撰出セル陸戰隊將校ヲ載セ、第七戰隊ニ合センカ爲メ、大同江ニ向ヒ出港セリ、同日東郷聯合艦隊司令長官ハ、遼東方面ノ敵ニ對スル聯合艦隊作戰命令ヲ發シ、其ノ大要ヲ大本營、第二艦隊司令長官及ヒ第二軍司令官ニ電報シ、又工作船、給水船、給糧船、病院船其

ノ他ノ運送船ニ向ヒ、五月四日海州邑錨地ヲ出發シ、五日裏長山列島泊地ニ來著スヘキ旨ヲ訓令セリ、

第二目 獨立師團上陸地點等ノ探查

東郷聯合艦隊司令長官ハ、曩ニ大本營ト協議ノ結果、鹽大澳ヲ以テ第二軍ノ陸揚ケ地點ニ撰定セシカ、同地ハ二十七八年戰役ノ實測ニ依リ、海陸ノ地形略判明セルヲ以テ、今日更ニ我カ艦艇ヲ派遣シテ之ヲ偵察セシムル如キハ、徒ニ敵ノ注意ヲ喚起シ、敵ヲシテ防禦ノ術ヲ講セシムルノ虞ナキニアラス、且今日ニ至ル迄、敵カ同灣ニ何等防禦ノ施設ヲナシタル情報ニ接セス、故ニ寧口之ヲ不問ニ附スルカ如ク裝ヒ、敵ノ備ナキニ乘シ、急速上陸ヲ決行スルヲ以テ得策ナリトシ、陸揚ケ開始ノ眞際ニ至ル迄、鹽大澳ニハ我カ艦艇ヲ接近セシメサルノ方針ヲ取リシカ、是ヨリ先キ大本營ニ於テハ、第二軍ノ上陸ニ次キテ、更ニ獨立一個師團ノ兵ヲ第一、第二兩軍ノ中間地點ニ上陸セシメ、情況ニ應シ、第一軍又ハ第二軍ト協同動作セシムルコトニ決セシヲ以テ、四月十九日伊集院軍令部次長ハ、東郷聯合艦隊司令長官ニ電報スルニ、遼東半

島ノ南岸西ツングス岬以東大羊河々口以西ニ於テ、一個師團ノ陸兵ヲ上陸セシムルニ適當ナル地點ヲ實地踏査ノ上、至急報告セラレンコトヲ以テセリ、仍テ東郷司令長官ハ之カ探査ヲ兼ネテ、聯合艦隊ノ第三前進根據地ト豫定セル、裏長山列島泊地ニ於ル水雷沈置ノ有無等ヲ偵察セシメンカ爲メ、四月二十日出羽第一艦隊司令官ニ、左ノ訓令ヲ與フ、

- 一、貴官ハ其ノ麾下ノ三隻淺間及ヒ第十四艇隊(真鶴ヲ加フ)ヲ率非本日出發
- 明二十一日午前八時頃海洋島附近ニ達シ左記ノ諸任務ヲ遂行スヘシ
- (イ)本日午後二時頃白翎島ヲ發シ明日午後四時頃迄ニ海洋島ノ南方約十海里迄海底電線ヲ敷設スル沖繩丸ヲ掩護スルコト

(附記) 沖繩丸ハ敷設ニ支障ナキ限り明日午後海洋島ヨリ當地ニ向ケ歸港ス

- (ロ)艇隊及ヒ艦載水雷艇若クハ汽艇等ヲ以テ遼東南岸大羊河口以西西ツングス岬以東間ニ於テ陸軍一個師團ヲ揚陸セシムルニ足ルヘキ地點ヲ實地ニ探査セシムルコト

(ハ)最近情報ニ依リ疑アル裏長山列島錨地ノ機械水雷沈置ノ有無ヲ探査スルコト

(附記) 筑紫副長支那語ニ通スルヲ以テ同艦著次第海洋島ノ西方約十海里ニテ其ノ隊ニ合スル如ク前進セシメ、臨時貴官ノ指揮ヲ受ケシム

二、貴官ノ海洋島方面ニアル間第五八八地點(編者曰ク大青島ノ北北西微西六十五海里)ニ通信連絡ノ爲メ一艦ヲ配置スル豫定ナリ

三、任務ヲ遂行シ終レハ當地ニ歸著ス可シ(聯隊機密第三三一四號)

右訓令ニ依リ、出羽司令官ハ直ニ麾下艦艇ニ、左ノ命令ヲ發ス、

- 一、聯隊機密第三一四號ニヨリ當隊(淺間ヲ加フ)及ヒ第十四艇隊(真鶴ヲ加フ)ハ本日午後四時出港原速十浬

二、明朝海洋島ニ達シ假泊水雷艇ヲシテ港内ニ入り適宜ノ「ジャンク」四隻ヲ徵發セシメ各艦ヨリ上陸地點探査員ヲ乗組マシム

組合 千歳——千鳥——吉野——燕——笠置——隼

三、午後海洋島ヲ發シ地點六百四十(編者曰ク東ツングス岬ノ北々西微西約十七海里)附近ニ達スレハ

假泊水雷艇隊(淺間ハ艦載水雷艇)ハ「ジャンク」ヲ曳キ適宜ノ位置ニ前進假泊ス

(注意)水雷艇ハ可成敵竝ニ土民ノ眼ニ觸レサル様ナスヘシ

四、明後日未明ヨリ上陸地點撰定ニ著手シ夕刻之ヲ終ヘ艇隊ハ之ヲ曳キ

本隊ニ歸ルヘシ

五、上陸地點撰定ノ爲メ各艦ノ受持場所ヲ左ノ如ク定ム

千歳 大羊河口西岸附近

笠置 ウエザ岬附近

吉野 東ツングス岬附近

淺間 西ツングス岬附近

六、上陸地點探査ノ後本隊ハ裏長山列島錨地ニ入り敷設水雷ノ有無ヲ探

査セントス(三戰機密第七九號)

第三戰隊(高砂ヲ欠キ淺間ヲ加フ)及ヒ第十四艇隊(真鶴ヲ欠キ燕ヲ加フ)ハ、二十日午後四時海州邑錨

地ヲ發シテ海洋島ニ向ヒ、六時三十分港外ニ於テ筑紫ノ大同江ヨリ來ルニ

會シ、出羽司令官ハ之ヲ五番艦トシテ續行セシメ、翌二十一日午前十時海洋島ニ達シ、筑紫及ヒ第十四艇隊ハ、「ジャンク」徵備ノ爲メ彖登摺ニ入り、他ノ諸艦ハ便宜摺外ニ假泊シ、又沖繩丸ハ昨日濃霧ノ爲メ出港スルヲ得ス、今朝十時白翎島ヲ發シ、海底電線敷設ニ從事セリ、午後四時三十分各水雷艇ハ、「ジャンク」一隻宛ヲ曳キテ彖登摺ヲ出テ、各艦ヨリ探査員ヲ乗セ、大羊河口ニ向ヒテ先發シ、艦隊ハ五時拔錨シテ北東ニ進ミ、九時過キ大鹿島ノ南西約二十海里ノ地點ニ假泊シ、淺間ハ艦載水雷艇ヲ卸シテ、上陸地點ノ探査ニ赴カシム、而テ各探査員ハ、二十二日早朝ヨリ夫指定ノ位置ニ到リテ、上陸地點ヲ探査偵察シ、日没頃水雷艇隊ト共ニ艦隊泊地ニ歸來セリ、仍テ出羽司令官ハ、各探査員ヨリノ報告ヲ綜合シテ、東郷司令長官ニ向ヒ、東ツングス岬ノ南西角ヲ以テ先ツ適當ト認ム、距岸一海里半ノ所ニ於テ、滿潮ノ時水深四尋半アリ、運送船ハ皆四海里以内ニ入ルコトヲ得ヘク、又海岸ノ底質堅クシテ泥ナク、端舟ヲ近ツクルヲ得ヘシ、尙土人ノ言ニ依レハ、此ノ方面沿岸一帯ニ遠淺ニシテ適當ナル所ナシトノ電報ヲ發シ、又淺間艦長海軍大佐八代六郎ニ向ヒ、明

朝淺間、吉野ヲ率非テ裏長山列島ニ至リ、土人ニ就キテ、敷設水雷ノ有無及ヒ流著セシ水雷爆裂ノ實否等ヲ糺問シ、明日夕刻迄ニ千歳ニ合スヘキ旨ヲ訓令シ、出羽司令官ハ千歳ヲ率非テ、明日自ラ上陸地點ヲ再査スルコトニ決セシカ、翌二十三日午前五時三十分頃ヨリ、濃霧急襲ノ爲メ、凡テノ行動ヲ延期シ、東郷聯合艦隊司令長官ニ、上陸地點ニ關スル報告ヲナサシムル爲メ、笠置ヲシテ第一艦隊參謀海軍少佐山路一善ヲ乗セ、海州邑ニ歸航セシム、二十四日午前十一時三十分霧漸ク霽レタルヲ以テ、將ニ行動ヲ起サントスル際、濃霧再襲シテ復行動ヲ延期シ、海洋島ニテ徵備セシ「ジャンク」ヲ解備シ、午後五時三十分霧霽レ、陸岸ヲ明視シ得ルニ至リタルヲ以テ、敵ノ視線ヲ避クル爲メ、艇隊ヲ此ノ地ニ殘シテ、千歳ハ南方十五海里ニ退キ、淺間、吉野ハ海洋島ノ北方約五海里ノ地點ニ移錨シ、筑紫ハ大同江ニ向ヘリ、二十五日午前七時出羽司令官ハ、千歳ヲ率非テ再前日ノ錨地ニ進ミ、千歳航海長海軍大尉花房太郎ヲ伴ヒテ、燕ニ乗艇シ、第一艦隊參謀海軍大尉竹内重利ヲシテ、準ニ乗ラシメ、共ニ南尖附近ヨリ牛石圈ヲ視察シ、又千歳ヲシテ牛石圈沖ヲ測量セシメ、

午後一時三十分之ヲ終リ、出羽司令官ハ千歳ニ歸リ、淺間、吉野ニ會合センカ爲メ、直ニ海洋島ノ方ニ向ヒ、第十四艇隊ヲシテ隨意海州邑ニ歸航セシム、淺間及ヒ吉野ハ、二十五日午前六時海洋島ノ北方ヲ發シ、九時過キ小長山島ノ南方ニ達シテ假泊シ、偵察隊ヲ派遣シテ、島民ニ就キ沈置水雷ノ有無、流著水雷ノ爆發竝ニ露艦ノ來否等ヲ尋問セシメシカ、土人ノ言ニ據レハ、大長山島ニ於テ、清曆二月二十五日(十四日頃)頃、水雷爆發シテ島民二名ヲ殺シタルコトアリシモ、該水雷ハ海上ニ於テ拾得シタルモノニシテ流著シタルニアラス、又本年ニ至リテハ曾テ露艦ノ入港セシモノナシト云フ、而テ島民ハ概シテ我ニ好意ヲ表シ、敢テ事實ヲ隱蔽スルカ如キ狀ナカリシト雖モ、尙念ノ爲メ、淺間ハ大長山島ト哈仙島間ノ水道ヲ、吉野ハ南方入口ヲ夫々搜海セシモ、水雷沈置ノ形跡ヲ認メス、午後五時海洋島ノ北方ニ於テ千歳ト會シ、八代淺間艦長ハ、探查ノ結果ヲ出羽司令官ニ報告セリ、

一、東ツングス岬南西角上陸場ハ少シク狭ク端舟混雜スルノ嫌アリ併シ

其ノ附近ニモ上陸シ得ヘシト思ハル、所アリ西ツングス岬ノ西灣ハ海岸砂濱ニシテ廣漠タリ其ノ沿岸諸所ニ岩石アルモ「ジャンク」皆其ノ内ニ入り居レリ兩方ノ上陸場トモ運送船ハ四海里以内ニ小蒸氣艇ハ半海里ニ端舟ハ何レモ海岸ニ近ク達シ得ヘシ

二、小長山島ニハ水雷漂著セシコトナシ大長山島ニハ清曆二月二十五日水雷爆裂シテ二名ヲ殺セリ之ハ海上ヨリ拾ヒ來レルモノナリ南ノ入口及ヒ大長山島哈仙島ノ中間ヲ搜海セシモ異狀ナシ其ノ後露艦露人共ニ來リシコトナシ

午後五時五十分清國軍艦海籌ノ南方ヨリ來ルニ會シ、彼ヨリ海洋島ニ入りテ宜シキヤトノ信號ニ接シ、出羽司令官ハ宜シトノ返信ヲ與ヘ、二十六日午前九時三十分海州邑ナル第二地點ニ歸著セリ、

第三目 旅順口偵察

東郷聯合艦隊司令長官ハ、陸海協同作戰ノ諸準備漸ク成ラントシ、次回行動開始ノ時期正ニ切迫シタルカ爲メ、四月二十六日第三戰隊カ上陸地點偵察

ヲ終ヘテ、根據地ニ歸著スルニ及ヒ、更ニ梨羽第一艦隊司令官ニ、左ノ訓令ヲ與ヘテ、旅順ノ敵狀ヲ偵察セシメ、且第三次閉塞船指揮官ヲシテ、港口ノ狀況ヲ視察セシム、

一、貴官ハ第一戰隊ノ第二小隊及ヒ八雲第三第四第五驅逐隊ヲ率非明日午前五時三十分出發速力十二節ヲ以テ旅順ニ向ヒテ進ミ同日夕刻ヨリ驅逐隊ヲ放チテ旅順ノ敵狀ヲ偵察セシメ、明後日朝驅逐隊ノ退路ヲ掩護シテ來二十九日午前中ニ當地ニ歸港スヘシ

二、第四第五驅逐隊ニハ第三次閉塞隊指揮官ヲ分乘セシメアリ

三、第三驅逐隊ニハ旅順口外ヲ去ルトキ適宜機械水雷沈置ノ僞動ヲナサシムルヲ可トス

右訓令ニ依リ、梨羽第一艦隊司令官ハ、二十七日午前五時三十分麾下諸隊ヲ率非テ海州邑ヲ發シ、同日午後七時驅逐隊ヲ放チテ豫定ノ行動ヲ取ラシメ、戰隊ヲ率非テ南東方ニ變針ス、各驅逐隊ハ、正午頃ヨリ逐次旅順口前ニ達シテ、敵狀竝ニ探海燈ノ位置ヲ偵察セシカ、此ノ夜月明ニシテ、加フルニ敵ハ四

個處ノ探海燈ヲ點照セシヲ以テ、海陸ノ形狀竝ニ探海燈ノ位置ヲ明瞭ニ視察スルコトヲ得タリ、而テ第三驅逐隊ハ、二十八日午前一時三十分頃、港ノ南方約四千米突ニ進ミ、豫定ノ如ク「ホームスライト」十餘個ヲ投下シ、機械水雷沈置ノ偽動ヲナセシニ、敵ハ砲臺ヨリ數發ノ發砲ヲナセシノミニシテ、我ニ損害ナク、各驅逐隊ハ遇岩ノ西方ニ集合シ、二十八日午前七時頃戰隊ト合セリ、

梨羽司令官ハ、二十七日午後十時五十分、再旅順口ニ向ヒテ變針シ、二十八日午前五時三十分、驅逐隊ノ退却ヲ掩護セシムル爲メ、龍田ヲシテ速力ヲ増シ、旅順口ニ前進セシメ、七時龍田及ヒ各驅逐隊ヲ合シ、南東ニ變針シ、午後五時四十分第五驅逐隊ヲ戰隊ノ右側半海里ニ位置セシメ、第三驅逐隊ヲ戰隊ノ左側半海里ニ位置セシメ、第四驅逐隊ヲ戰隊ノ後方半海里ニ位置セシメテ警戒航行シ、二十九日午前十時過キ、海州邑錨地ニ投錨セリ、

第二節 第三回閉塞船ノ準備

第一目 閉塞船ノ艤裝

東郷聯合艦隊司令長官ハ、旅順港口ノ閉塞ヲ試ムルコト已ニ再度ニ及ヒシモ、未タ完全ニ其ノ効ヲ奏セサルヲ見、第二次閉塞行動ヲ終リテ海州邑ニ歸著シ、後更ニ大規模ノ閉塞ヲ企テ、三月二十九日大本營ニ電報スルニ、旅順口ハ早晚閉塞シテ、黃海ニ於ル敵ノ根據地ヲ失ハシムル必要アルニツキ、出來得ルコトナレハ、更ニ閉塞船十二隻位ノ準備アラシコトヲ望ムトノ旨ヲ以テセシカ、大本營ニ於テハ此ノ電報ニ接シ、同月三十一日聯合艦隊司令長官ニ向ヒ、目下出來得ル丈ノ帝國船舶ハ、陸海軍用ニ供シ居ル現況ナルヲ以テ、閉塞用船ハ此ノ内ヨリ取ラサルヘカラス、然ルニ今般要求セラレタル閉塞船十二隻ヲ使用シ、若シ不幸ニシテ完全ノ効果ナク、又更ニ若干隻ノ閉塞船ヲ要スルニ至ラハ、陸海軍ノ輸送上ニ顧慮セサル可カラサルヲ以テ、要求ノ件ハ遽ニ決シ難シ、故ニ大本營ノ使命ヲ帶ヒ、聯合艦隊ニ出向シツ、アル財部參謀到著ノ上、國家ノ大局ニ鑑ミ、彼是斟酌シテ熟考ノ上、更ニ何分ノ意見ヲ示サレタシト返電セリ、仍テ東郷聯合艦隊司令長官ハ、財部參謀等ノ來著

ヲ俟テテ、四月四日再軍令部長ニ電報スルニ、旅順口閉塞ハ尙必要ト思考スルカ故ニ、成ルヘク速ニ閉塞船ヲ準備セラレタク、又一時ニ十二隻ヲ準備シ得サレハ、出來得ル丈ニテ可ナル旨ヲ請求セリ、

是ニ於テ伊東軍令部長ハ、聯合艦隊司令長官ノ要望ニ從ヒ、陸軍當局者ト交渉シテ、陸軍用船四隻、海軍用船八隻ヲ取りテ、閉塞用ニ供スルコトニ決シ、四月六日聯合艦隊司令長官ニ電報スルニ、海軍用船ヨリ新發田丸、釜山丸、佐倉丸、小倉丸、朝顔丸、三河丸、長門丸及ヒ相模丸ノ八隻ヲ擇ヒ、陸軍用船ヨリ遠江丸、愛國丸、江戸丸及ヒ小樽丸ノ四隻ヲ擇ヒ、要求ニ從ヒ、前進根據地用運送船トシテ設備スルコト、及ヒ積載材料乏シキカ爲メ、數箇所ニ於テ積込ヲ要スルヲ以テ、完整ノ時期遅延スルヲ免レサルコト、竝ニ諸典砲ハ船橋ヨリ後方ニ裝備シ、又石材ノ空隙ニハ「セメント」ヲ流シ込ム計畫ナルコト等ヲ以テスルト共ニ、海軍大臣海軍中將男爵山本權兵衛ハ、是等諸船ニ命シテ直ニ吳軍港ニ回航（新發田丸ハ横須賀ヨリ直ニ大坂ニ回航ス）シテ、同鎮守府司令長官ノ指揮ヲ受ケシメ、又柴山吳鎮守府司令長官ニ、左ノ電訓ヲ發セリ、

海軍用船新發田丸、釜山丸、佐倉丸、小倉丸、朝顔丸、三河丸、長門丸、相模丸、陸軍用船遠江丸、愛國丸、江戸丸、小樽丸總計十二隻ヲ前進根據地用運送船トシテ聯合艦隊ニ附屬セシム、貴官ハ彌彦丸、米山丸等ノ例ニ準シ、之ニ設備ヲナスヘシ、積載方監督ノ爲メ大尉齋藤七五郎ヲ派遣ス、（編者曰ク齋藤七五郎ヲ尊重スルカ爲メ海軍兵學校教官ニ轉職セシメラレシカ前回ノ經驗アリシカ爲メ）今般聯合艦隊參謀長ヨリノ希望ニヨリ閉塞船準備ノ監督ヲ命セラレタルモノナリ

右船舶ハ一旦吳ニ回航セシム、但新發田丸ハ直ニ大坂ニ回航セシム、

柴山吳鎮守府司令長官ハ、右訓令ニ依リ、大坂ニ在ル齋藤大尉ニ訓令スルニ、前進根據地用運送船新發田丸外十一隻ハ、至急大坂ニ回航セシメ、貴官ノ指揮ヲ受ケシムルコト、此等運送船ハ大坂ニ於ル準備結了セハ、當軍港ニ歸著ノ上直ニ兵裝ニ著手スルコト、石材搭載ニ關シテハ、極テ祕密ヲ要スヘキモノナルヲ以テ、船員ノ音信竝ニ陸上ノ交通ヲ一切禁止スル等、適宜ノ處置ヲ執ルヘキコト等ヲ以テセシカ、其ノ後石材ノ都合ニ依リ、運送船二隻ハ大坂ニ於テシ、其ノ他ハ、播磨國家島ニ於テ積載スルコトニ決定セシヲ以テ、最初吳ニ著セシ愛國丸及ヒ江戸丸ハ、大坂ニ回航ヲ命シ、他ノ十隻ハ家島ニ回航

シテ、同島ニ出張セル石黒海軍技師ノ指揮ヲ受ケシム、而テ十二隻ノ運送船ハ、四月十九日佐倉丸ノ吳出發ヲ最後トシテ、各船指定ノ場所ニ於テ、石材ヲ搭載シタル後、逐次吳軍港ニ回航シ、同地海軍工廠ニ於テ、兵裝其ノ他ノ準備ニ著手セリ、之ニ關シ柴山吳鎮守府司令長官ヨリ、吳海軍工廠長海軍少將山内萬壽治ニ與ヘタル訓令ノ要領左ノ如シ、

一 前進根據地用運送船新發田丸釜山丸佐倉丸小倉丸朝顔丸三河丸長門丸相模丸遠江丸愛國丸江戸丸小樽丸總計十二隻ノ前甲板ニ諸典砲二門ツ、ヲ裝備スルコト

一 裝備スヘキ諸典砲ニハ每壹門ニツキ「ポツパー」七個彈藥五百七十六宛ヲ準備スルコト

一 前記運送船中準備完成順序ニ應シ每四隻中ノ一隻ニ探海燈一基及ヒ發電機一基宛ヲ設備スルコト

但三艘ノ内一艘ハ長門丸トス(編者曰ク他ノ二艘ハ新發田丸小倉丸ニ決定ス)

一 前記運送船ニハ豫備舵器トシテ上甲板適宜ノ場所ニ「レリーピング」テ

「I」クル」ノ裝備ヲナスコト

一 前記運送船中新發田丸ニ左ノ兵器ヲ搭載スヘシ

十六斤綿火藥 一四四箇

發火藥罐信管共 九六箇

小裝鎧電纜 八〇〇〇米突

十電器電池函 四八箇

試驗用電池 一二箇

發火電鑰 四八箇

水雷要具囊 一二箇

牛眼燈 一二箇

「メカホン」 一二箇

洋蠟 一〇〇〇本

一 前記運送船ニハ各船ニ「バラスト」用トシテ第三種炭約四百噸宛ヲ前後大「ホールド」ノ船底ニ平ニ分載スルコト

但適當位置ニ已ニ石炭搭載シアルトキハ其ノ種類ヲ問ハス(英炭陸揚ス)噸數ヲ加減シ約四百噸トスルコト

一各船ニ自船用トシテ煉炭若クハ英炭五十噸ツ、ヲ石炭庫ニ搭載スルコト

一各船共船體ノ許ス限り「バルクヘッド」ノ「リベット」ヲ切除シ各部ノ防水區劃ヲ不完成ナラシムルコト

尙搭載セル石材ノ航海中轉輾スルヲ防ク爲メ、其ノ間隙ニ「コンクリート」ヲ填充スルコト、シ、遠江丸ハ吃水許サ、ルヲ以テ之ヲ施サ、リシカ、愛國丸、江戸丸、小樽丸ハ中甲板ニノミ之ヲ行ヒ、其ノ他ノ諸船ハ、全船體ニ填隙ヲ施シ、石材ヲシテ一ノ實體タラシメ、又各船ニ繃帶小包十箇、「ナイトグラス」一箇ツ、ヲ供給セリ、是ヨリ先キ齋藤海軍大尉ハ大坂ニ於ル任務ヲ果シタル後、吳ニ出張シテ諸準備ヲ擔任監督シ、前回ノ缺點ヲ改良増補シタルヲ以テ、今回ノ閉塞船ハ、前二回ノモノニ比スレハ、極テ適良ニ設備セラル、即チ前後船艙及ヒ機械室ノ四ヶ所ニ、爆發用裝藥置場ヲ造リ、電池格納棚ヲ設ケ、船橋機

關室間ニ傳話管ヲ備ヘ、又前回ニ於テハ端舟ノ多クハ、漏水甚シカリシニ鑑ミ、悉皆之ヲ修理シ、「スピードマーク」牛眼燈「メカホン」ニ至ル迄、悉ク之ヲ備附クルニ至レリ、柴山吳鎮守府司令長官ハ、此等運送船ノ設備完結次第、逐次聯合艦隊所在地ニ回航ヲ命シ、江戸丸、愛國丸、小樽丸ハ四月十七日、三河丸、遠江丸、新發田丸ハ十八日、小倉丸、朝顔丸ハ十九日、相模丸ハ二十日、長門丸ハ二十一日、佐倉丸ハ二十二日ヲ以テ、何レモ吳軍港ヲ發セリ、各船要目ノ大要竝ニ積載材料等、左表ノ如シ、

船名	總噸數	排水量	實馬力	速力		製造年月	製造者クハ 購入價格	所有者
				最大	通常			
江戸丸	一、七二四	一、八五〇	五七五	一一、四三	一〇、二一	明治十七年六月	一五八、〇〇〇	廣海二二三郎
愛國丸	一、七八一	一、六五〇	八〇〇	一三、〇〇	一一、五〇	明治十二年	一〇、〇〇〇	大坂商船株式會社
小樽丸	二、五四七	三、〇〇〇	一、一〇三	一一、七〇	一〇、三〇	明治十九年五月	一五一、五〇九	東京日本郵船株式會社
釜山丸	二、五〇一	二、九二〇	一、一五〇	一一、〇〇	九、五〇	明治十六年十月	二〇九、八〇七	大坂商船株式會社
新發田丸	二、七八三	四、二〇〇	三、〇〇〇	一三、〇〇	一一、〇〇	明治十九年二月	四五二、九六六	長崎三菱合資會社
遠江丸	一、九五三	二、三八〇	八三三	一〇、四〇	八、九〇	明治十六年	二八四、六三九	東京日本郵船株式會社
三河丸	一、四〇三	二、三二〇	七二八	一〇、〇〇	八、八〇	明治十七年	一五一、九五三	東京日本郵船株式會社

船名	總噸數	排水量	實馬力	最速		製造年月	製造者
				最大	通常		
佐倉丸	二,九七八	三,七〇〇	二,三〇〇	一一,〇〇〇	一一,〇〇〇	明治二十年	三九八、九九五 東京 日本郵船株式會社
長門丸	一,八八四	二,一〇〇	一,五〇〇	一一,〇〇〇	一一,〇〇〇	明治十七年	三四一、一八八 東京 日本郵船株式會社
相模丸	一,九二六	二,一〇八	一,二〇〇	一一,〇〇〇	一一,〇〇〇	明治十七年	三一九、六八八 東京 日本郵船株式會社
朝顔丸	二,四六四	三,五五〇	一,一〇〇	一一,六五〇	一一,〇〇〇	明治二十二年	一八四、一六 東京 日本郵船株式會社
小倉丸	二,五九六	三,三四〇	一,七八六	一一,〇〇〇	一一,〇〇〇	明治二十年	二三五、五八三 東京 日本郵船株式會社

船名	搭載材料		石材搭載ニ要 セシ總費額	搭載前吃水		搭載後吃水		搭載地入 港月日時	搭載地出 港月日時	搭載ニ要 セシ日時
	石	材		セメント	石材	セメント	石材			
相模丸	六二〇	九〇	九八三	一七、八	一九、一〇	二八、三〇	二八、三〇	二時三十分前	四時九十分前	一一、三〇
朝顔丸	二,〇一一	一一〇	三,一九八	一九、三	二一、八	三三、三〇	三三、三〇	三時三十分前	五時三十分前	三三、三〇
小倉丸	一,九四四	一〇〇	三,〇八五	二一、〇	二三、五	三三、三〇	三三、三〇	三時三十分後	五時三十分前	三五、三〇
三河丸	一,一九五	一三〇	一,八九七	一九、〇	二一、八	三三、三〇	三三、三〇	三時三十分後	六時三十分後	二四、〇〇
遠江丸	一,〇七二	〇	一,七〇一	一九、二	二一、一	三三、三〇	三三、三〇	三時三十分前	七時三十分前	二〇、三〇
新發田丸	一,〇五〇	一三〇	一,六六六	二〇、八	二三、三	三三、三〇	三三、三〇	三時三十分前	五時三十分後	二六、〇〇
釜山丸	一,九二八	一〇〇	三,〇六〇	二〇、五	二二、一	三三、三〇	三三、三〇	六時三十分前	六時三十分後	三三、〇〇
小樽丸	八四三	二八	一,三三八	一九、六	二二、〇	三三、三〇	三三、三〇	五時三十分前	六時三十分前	一八、〇〇
愛國丸	八六六	一三	二,三四九	一九、〇	二一、三	三三、三〇	三三、三〇	八時三十分前	三時三十分後	二五、〇〇
江戸丸	一,五一	一五	二,九七四	一九、〇	二二、三	三三、三〇	三三、三〇	七時三十分前	三時三十分後	三三、〇〇

又聯合艦隊ニ於テハ、初瀬分隊長海軍大尉遠矢勇之助等、聯合艦隊參謀長海軍少將島村速雄ノ命ヲ含ミ、閉塞船ノ海州邑ニ入港スルニ從ヒ、逐次爆發裝置其ノ他ノ準備(備考文)ヲ整ヘシカ、四月二十六日佐倉丸ノ來著ヲ最後トシテ、略其ノ準備ヲ終レリ、

爆發裝置ノ裝藥ハ、每船十六斤四分ノ一綿火藥十二個ツ、ヲ用ヒ、之ヲ前部及ヒ後部ノ船艙内舷側ニ六個ツ、壓著シ、發火電池ハ、四個ノ海軍用電池ヲ二個ツ、機關室内兩舷水線下ニ備ヘ、又電線ハ、水線下ヲ導キテ其ノ端ヲ分電路トナシ、前後二個所ヨリ上甲板ニ出シ、電池電線共ニ其ノ一方ヲ損スルモ、他ノ一方ノモノヲ以テ任意ノ爆發ヲ遂ケ得ル如ク接合セリ、而テ線端ニハ電鑰ノ代リニ結節ヲ設ケ、其ノ數ニヨリ暗中手探リヲ以テ、容易ニ前後裝藥ノ線端ヲ區別シ得ル如クナセリ、(備考文)

第二目 閉塞隊員ノ編制竝ニ閉塞規約

前進根據地用運送船新發田丸以下十二隻ハ、已ニ閉塞準備ヲ整ヘテ海州邑ニ來著シ、行動開始ノ機モ亦近キニアラントズルヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ、四月二十五日韓國西岸方面ニアル廳下各艦長(驅逐艦ヲ除ク)ニ、左ノ命令ヲ發シ、併テ將校竝ニ機關官ニシテ閉塞事業ニ從事セント欲スルモノヲ募集セリ、敵港閉塞ノ如キ冒險事業ニ從事スルヲ志願スル下士卒中ヨリ左記ノ人員ヲ選抜シ可成速ニ届ケ出ツヘシ

選 拔 兵 種

操舵ノ經驗アル	兵曹又ハ倍艦兵曹 一、二等水兵又ハ倍艦兵	敷設水雷ノ心得アル	兵曹又ハ一、二等水兵
錨ノ取扱ニ經驗アル	兵曹又ハ一、二等水兵	汽機取扱ノ經驗アル	機關兵曹又ハ一、二等機關兵
操砲ノ經驗アル	一、二等水兵	焚火ノ經驗アル	機關兵
探海燈取扱ノ經驗アル	兵曹又ハ一、二等水兵	發電機取扱ノ經驗アル	機關兵曹又ハ一等機關兵
備考	適任者ナキトキハ其ノ旨附記シテ届ケ出ツヘシ		

(聯隊機密第
三三二號)

右募集ノ命令アルヤ、先ヲ爭ヒテ願書ヲ呈出スルモノ前二回ニ數倍シ、殊ニ

第三艦隊ノ如キハ、開戦以來專ラ朝鮮海峽ノ警備ニ從事シ、第一、第二艦隊ノ屢偉功ヲ奏スルニ反シ、未タ敵影ニサヘ接セス、將士共ニ髀肉ノ歎ニ堪ヘサリシカハ、今ヤ此ノ命令ニ接スルニ及ヒ、踴躍奮起シテ募リニ應スルモノ頗ル多ク、又前回ノ閉塞隊員ニシテ、再行動ニ加ヘラレンコトヲ願フモノモ尠カラサリシカ、東郷聯合艦隊司令長官ハ、決死的冒險事業ニ同一ノ將士ヲ屢用ヒサル様トノ 聖旨ヲ奉體シテ、全然新應募者ヨリ撰拔スルコトニ決シ、鳥海艦長海軍中佐林三子雄ヲ第三次閉塞總指揮官ト爲シ、隊員ヲ編成スルコト左表ノ如シ、

第三次旅順口閉塞隊編成表

新發田丸	總指揮官	海軍中佐	林三子雄(鳥海艦長)
	指揮官	海軍大尉	遠矢勇之助(初瀬分隊長)
	指揮官附	海軍中尉	中村良三(扶桑分隊長)
	機關長	海軍機關少監	河井義次郎(八雲分隊長)

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
初瀬	一等兵曹	庄司友次	錨	龍田	三等兵曹	保田未吉	電
初瀬	一等兵曹	坂本寅次郎	錨	鳥海	二等信號兵曹	山口與次郎	接
朝日	二等兵曹	青山久次郎	錨	朝日	二等水兵	芝巳之助	砲
八雲	二等機關兵曹	篠田政吉	機	朝日	三等機關兵曹	熊谷龜松	機
八雲	一等機關兵	松原隆造	機電	朝日	一等機關兵	横山品吉	電
八雲	一等機關兵	粕谷潤太	錨	朝日	一等機關兵	吉田勝五郎	錨
八雲	二等機關兵	三島善重郎	機	朝日	二等機關兵	寺田映太郎	機
八雲	二等機關兵	土田丈助	錨	朝日	二等機關兵	太田定四郎	錨
八雲	二等機關兵	古屋英幸	錨	朝日	二等機關兵	北河真作	錨
龍田	二等機關兵	大西庄藏	錨	龍田	二等機關兵	川口庄次郎	錨

小倉丸

指揮官 海軍少佐 福田昌 輝(春日丸分隊長)

指揮官附 海軍中尉 松島景 龜(春日丸乘組)

機關長 海軍大機關士 富安良一(初瀬分隊長)

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
春日丸	一等兵曹	佐野倉之丞	砲	三笠	三等兵曹	田中三次郎	錨

春日丸	二等兵曹	吉村盛之進	接	三笠	一等水兵	大谷常雄	水
敷島	三等兵曹	高木軍治	錨	敷島	二等水兵	井芹清久	砲
初瀬	一等機關兵曹	福迫太市	機	三笠	二等機關兵曹	野津庄三郎	機
初瀬	二等機關兵曹	木田繁市	電	三笠	一等機關兵	松浦與吉	機
初瀬	一等機關兵	片平仲次	錨	三笠	一等機關兵	馬淵瀧三郎	錨
初瀬	二等機關兵	藤島與四郎	機	三笠	一等機關兵	山王丸友吉	錨
初瀬	二等機關兵	伊藤茂市	錨	揚武	一等機關兵	槌谷鉄藏	錨
三笠	二等機關兵	三石千一郎	錨	揚武	二等機關兵	大橋友三郎	錨
三笠	二等機關兵	林照次郎	錨				

釜山丸

指揮官 海軍大尉 大角岑 生(濟遠航海長)

指揮官附 海軍中尉 井出光 輝(橋立乘組)

機關長 海軍中機關士 徳永 斌(宮古分隊長)

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
明石	三等兵曹	平川福太郎	錨	濟遠	二等水兵	吉野金市	砲
臺中	三等兵曹	福木外松	錨	明石	二等水兵	繁田國太	砲
濟遠	二等信號兵曹	山口真三	接	鳥海	一等機關兵	堀江末吉	機

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
宮古	二等機關兵曹	岩木石太郎	機	鳥海	一等機關兵	鍋倉甚之助	罐
濟遠	三等機關兵曹	佐々木七之丞	機	臺中	一等機關兵	岩木清一	罐
宮古	一等機關兵	餅原豊彦	機	臺中	一等機關兵	田邊清藏	罐
濟遠	一等機關兵	坂本吾三	罐	宮古	二等機關兵	丸田福右衛門	罐
濟遠	一等機關兵	城代善男	罐				

江 戸 丸

指揮官 海軍大尉 高柳直夫(秋津洲砲術長)

指揮官附 海軍中尉 永田武次郎(千代田分隊長心得)

機 關 長 海軍中機關士 與倉守之助(秋津洲分隊長心得)

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
須磨	二等兵曹	中村三代藏	鋪	秋津洲	二等水兵	安濃常右衛門	砲
磐城	三等兵曹	松岡平藏	鋪	須磨	二等水兵	山本光藏	砲
秋津洲	二等信號兵曹	大津留秋太郎	按	磐城	一等機關兵	松隈梅次郎	罐
秋津洲	一等機關兵曹	近藤廣吉	機	敷島	一等機關兵	武藤彌七郎	機
敷島	二等機關兵曹	吉永景藏	機	敷島	二等機關兵	上村寸吾	罐
秋津洲	一等機關兵	有川清吉	機	敷島	二等機關兵	光岡貞三	罐

秋津洲	一等機關兵	齊藤庄三郎	罐	敷島	三等機關兵	三木高平	罐
磐城	一等機關兵	堀米市藏	罐				

三 河 丸

指揮官 海軍大尉 匝瑺胤次(赤城航海長)

指揮官附 海軍中尉 大西良輔(明石乗組)

機 關 長 海軍中機關士 豊田稔(扶桑分隊長心得)

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
千歲	一等兵曹	北端龜吉	鋪	吉野	一等水兵	八百屋才吉	鋪
赤城	二等信號兵曹	辰巳德松	按	吉野	一等水兵	羽原九右衛門	砲
千歲	一等水兵	後藤太一	砲	千歲	一等機關兵	松原新太郎	罐
千歲	二等機關兵曹	岡野米治	機	千歲	一等機關兵	田中平八	罐
扶桑	三等機關兵曹	伊勢田榮助	機	扶桑	二等機關兵	奥山玉吉	罐
赤城	三等機關兵曹	中村元光	機	扶桑	二等機關兵	鈴木五郎吉	罐
扶桑	一等機關兵	鈴木幸次郎	機	赤城	四等機關兵	蛭谷虎次郎	罐
千歲	一等機關兵	鈴木多吉	機				

長 門 丸

指揮官 海軍少佐 田中銃郎(海門副長)

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
海門	一等兵曹	宮原 峯吉	錨	扶桑	一等水兵	佐々木 豹太	錨
海門	三等兵曹	益田 國平	接	鎮遠	二等水兵	鈴木 喜兵衛	砲
扶桑	三等兵曹	西山 可喜郎	水	鎮遠	三等水兵	近藤 儀八	砲
橋立	二等機關兵曹	伊藤 六三郎	機	臺南	一等機關兵	中村 力次郎	錨
鎮遠	三等機關兵曹	角張 今朝吉	機	鎮遠	一等機關兵	榎木 孝助	機
橋立	一等機關兵	千葉 壽治	機	鎮遠	一等機關兵	若松 庄八	電
橋立	一等機關兵	村田 樹郎	錨	鎮遠	二等機關兵	天野 杉松	錨
海門	一等機關兵	長谷川 隆平	錨	臺南	二等機關兵	永井 堅藏	錨
海門	一等機關兵	鷹野 汎正	錨			松浦 末太郎	錨
海門	一等機關兵	笠井 彦太郎	錨				

遠江丸

指揮官 海軍少佐 木田 親 民 (富士分隊長)

指揮官附 海軍中尉 森 永 尹 (高砂分隊長)

機 關 長 海軍大機關士 竹内 三千三 (吉野分隊長)

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
富士	二等兵曹	中田 源次郎	錨	富士	二等水兵	坂上 宗次郎	砲
富士	二等信號兵曹	田中 太郎吉	接	八島	二等水兵	中村 市郎兵衛	砲
八島	一等水兵	森下 淺治郎	錨	富士	一等機關兵曹	山内 喜一郎	機
吉野	三等機關兵曹	宮田 兵馬	機	富士	二等機關兵	竹内 寅藏	錨
吉野	一等機關兵	福田 朗	機	富士	二等機關兵	廣田 森吉	錨
吉野	一等機關兵	野田 京三郎	錨	富士	三等機關兵	岡井 惣七	錨
富士	一等機關兵	片山 辰次郎	機	吉野	三等機關兵	木村 千吉	錨
富士	一等機關兵	佐々木 龜太郎	錨				

小樽丸

指揮官 海軍大尉 野村 勉 (筑紫分隊長)

指揮官附 海軍中尉 笠原 三 郎 (筑紫分隊長)

機 關 長 海軍大機關士 岩 瀬 正 (明石分隊長)

第十章 第二節 第二目 閉塞隊員ノ編制並ニ閉塞規約 八十九

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
明石	一等機關兵曹	萬田松五郎	機	千代田	一等機關兵	前島貞之助	罐
千代田	三等機關兵曹	三吉惣吉	機	筑紫	二等機關兵	松島清太郎	罐
明石	一等機關兵	能登原多三郎	機	愛宕	二等機關兵	米倉貢	罐
明石	一等機關兵	好永五郎	罐	愛宕	二等機關兵	根本秀雄	罐
筑紫	一等機關兵	龜井梅吉	機				
相模 九							
指揮官 海軍大尉 湯淺竹二郎 (嚴島砲術長)				指揮官 海軍中尉 山本親之 (嚴島分隊長)			
指揮官附 海軍中尉 須磨				指揮官附 海軍大機關士 矢野研一 (須磨分隊長)			
撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
嚴島	一等兵曹	八見仲藏	接	嚴島	三等兵曹	田尾幸藏	砲
朝日	一等兵曹	菊池竹次郎	敷	橋立	三等兵曹	島口一	一
朝日	一等兵曹	今野喜美助	敷	朝日	一等水兵	石川莊三郎	敷
平遠	二等兵曹	岩石善三郎	鋪	朝日	一等水兵	森金作	敷
三笠	二等兵曹	太田國治	敷	橋立	二等水兵	箕浦源藏	砲
敷島	二等兵曹	河野精藏	敷	須磨	一等機關兵	中川勘次郎	罐

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
嚴島	一等機關兵曹	佐野廣大	機	嚴島	一等機關兵	牧野良造	罐
平遠	二等機關兵曹	菅野又次郎	機	平遠	一等機關兵	宮村幸助	罐
須磨	二等機關兵曹	四竈和聰	機	嚴島	二等機關兵	上野山幸吉	罐
須磨	一等機關兵	多田佐太郎	機	嚴島	三等機關兵	竹内夏次	罐
須磨	一等機關兵	財部善藏	罐				
朝顔 九							
指揮官 海軍大尉 向 菊太郎 (松島航海長)				指揮官 海軍中尉 系山貞次 (平遠分隊長)			
指揮官附 海軍大機關士 清水雄菟 (松島分隊長)				機 關 長			
撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
日進	二等兵曹	伊藤周助	鋪	宮古	二等水兵	谷原梅太郎	鋪
松島	一等水兵	笹方善市	接	日進	二等水兵	龜谷善九郎	砲
松島	二等水兵	半田源一	砲	日進	一等機關兵	阿部源吉	機
日進	一等機關兵曹	田中清之助	機	日進	一等機關兵	三野品藏	罐
松島	三等機關兵曹	濱田岩熊	機	日進	一等機關兵	近藤東一郎	罐
日進	一等機關兵	平賀長藏	罐	松島	二等機關兵	手島謙	罐
日進	二等機關兵	龜山彌吉	罐	松島	二等機關兵	安倍直	罐
松島	二等機關兵	前田秀松	機				

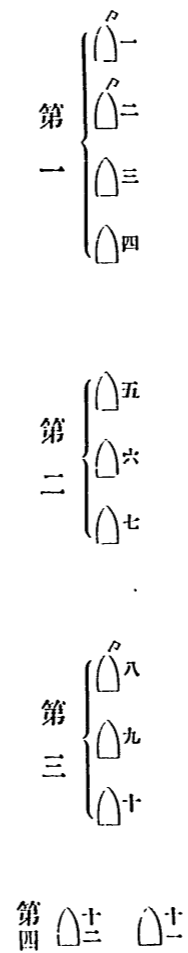
愛 國 丸	佐倉丸	撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置	
	指 揮 官	海軍大尉	白石 葎	江 (淺間分隊長)						
	指 揮 官 附	海軍中尉	高 橋 静	(須藤分隊長)						
	機 關 長	海軍大機關士	寺島 貞太郎	(淺間分隊長)						
			撰出艦	官職等級	姓名	配置				
			淺間	二等兵曹	藏 重 重 吉	按	八雲	二等水兵	大塚 榮三	砲
			八雲	三等兵曹	佐野 善次郎	錨	淺間	三等水兵	三宮 竹馬	砲
			淺間	一等水兵	吉 井 好 藏	錨	八島	一等機關兵	大谷 楠尾	錨
			淺間	一等機關兵曹	大野 藤 吾	機	八島	一等機關兵	上原 岩 吉	錨
			八島	二等機關兵曹	湊 治 平	機	淺間	一等機關兵	秋定 秋太郎	錨
			八島	一等機關兵	町口 福三郎	機	淺間	一等機關兵	青山 與太郎	錨
			八島	一等機關兵	林 岩 吉	錨	淺間	二等機關兵	末 永 新八	機
			八島	一等機關兵	田中 富五郎	錨	淺間	二等機關兵	稻葉 織 作	錨
		淺間	三等機關兵	石井 儀 一	錨					
指 揮 官		海軍大尉		犬塚 太 郎	(笠置分隊長)					
指 揮 官 附		海軍中尉		内 田 弘	(須藤分隊長)					
機 關 長		海軍中機關士		青木 好 次	(春日丸分隊長)					

林總指揮官以下各船指揮官ノ多クハ、第三艦隊ヨリ撰出セラレ、未タ旅順方面ニ行動シタルコトナキヲ以テ、閉塞實行ニ先タテ、豫メ港口ノ狀況竝ニ敵探海燈ノ位置等ヲ實見シ置クノ必要ヲ認メ、旨ヲ聯合艦隊司令長官ニ稟申シテ、其ノ允許ヲ得、梨羽司令官引率ノ下ニ於テ、第四、第五驅逐隊ニ分乘シ、第

撰出艦	官職等級	姓名	配置	撰出艦	官職等級	姓名	配置
笠置	一等兵曹	大野 權六	按	初瀬	一等水兵	長澤 四郎	敷
富士	二等兵曹	星出 千代藏	敷	初瀬	一等水兵	平松 友三郎	敷
八島	一等兵曹	田崎 榮次郎	敷	笠置	二等水兵	藤木 菅平	砲
高砂	一等水兵	岩木 慶助	錨	揚武	二等水兵	中村 尙一	錨
初瀬	一等水兵	吉 國 等	敷	高砂	二等水兵	平山 清治	砲
初瀬	一等水兵	那口 榮三	敷	高砂	一等機關兵曹	大田 脩一	機
笠置	二等機關兵曹	安留 治兵衛	機	高砂	一等機關兵	新宅 清太郎	錨
春日丸	三等機關兵曹	長谷川 常五郎	機	高砂	一等機關兵	深尾 秀男	錨
春日丸	一等機關兵	高石 幸作	機	高砂	二等機關兵	杉山 記義	錨
笠置	一等機關兵	佐々野 勘太夫	錨	高砂	三等機關兵	錦織 卓一	錨
笠置	一等機關兵	藤野 直次郎	錨				

一戰隊第二小隊ニ掩護セラレ、四月二十七日海州邑ヲ發シ、旅順口ヲ視察シテ、二十九日海州邑ニ歸著セリ、而テ前記閉塞隊員ハ、命ニ依リ、翌三十日各其ノ本艦ヲ辭シテ、受持閉塞船ニ移乘シ、マントレットヲ張り、端舟ヲ検査シ、試運轉ヲ行ヒ、爆發裝置ヲ整へ、又相模丸及ヒ愛國丸ハ、機械水雷各二十個宛ヲ搭載シ、五月一日正午頃迄ニ、各船共ニ其ノ準備ヲ完成シテ、固有船員ヲ他ニ移シ、以テ發進ノ令ヲ待テリ、

是ヨリ先キ、林總指揮官ハ、閉塞隊規約ヲ定ムルコト次ノ如シ、
一、閉塞船隊ノ航行及ヒ進入隊形區分左ノ如シ



- | | | | |
|----------|---------|---------|----------|
| 第一小隊 | 第二小隊 | 第三小隊 | 第四小隊 |
| (一) 新發田丸 | (五) 遠江丸 | (八) 長門丸 | (十一) 相模丸 |
| (二) 小倉丸 | (六) 釜山丸 | (九) 小樽丸 | (十二) 愛國丸 |

- | | | |
|---------|---------|---------|
| (三) 朝顔丸 | (七) 江戸丸 | (十) 佐倉丸 |
| (四) 三河丸 | | |

各船ノ距離ハ二鏈 各小隊ノ距離ハ四鏈トス

二、第一小隊ノ偶數船ハ嚮導船ノ左ニ奇數船ハ右ニ併列ス

第二小隊ハ中央ヨリ左半ヲ擔任ス

第三小隊ハ中央ヨリ右半ヲ擔任ス

第四小隊ハ中央ヲ擔任ス

但臨機ノ處置ヲ執ルコトヲ得

三、閉塞船ハ午後一時三十分黄金山電燈ヲ距ル南八海里ノ地ニ到達スル如ク行動ス

四、闖入ノ針路ハ正北々西トシ沈没位置ハ燈臺ヲ西南西ニ見ル一線トス

五、原速力八海里微速力四海里

六、閉塞船舵機其ノ他ニ故障アルトキハ速力ヲ止メ後續船ノ行動ニ妨ケ

ナキ限リハ其ノ位置ニ沈没スルコト

- 七、閉塞船港口ニ達シ沈没スルトキハ火ヲ高所ニ燃ヤス
 港口ニ達セサル已前右方ニ偏シテ沈没スルトキハ青光ヲ左方ニ偏シタルトキハ赤光ヲ示ス
- 八、閉塞船ハ後方三點ノ角度ヲ照ス艦尾燈ヲ點スルコト
- 九、嚮導船港口ニ接近シ針路ヲ變スルトキハ電燈ヲ點ス各船ハ微速力ニス
- 十、閉塞船(11)(12)ハ各機械水雷二十個ツ、ヲ載セ港口ヨリ約半海里ノ間ニ投下スルコト其ノ深度ハ最干潮ノ時水面下六呎トス
- 十一、晝間ハ通常ノスピードマークヲ使用ス夜間ハ燈火ヲ以テ左ノ信號ヲナス
- 原速 牛眼燈ヲ後續船ニ向ヒ固定ス
- 半速 同ヲ横振ス
- 微速 同ヲ縦振ス
- 後退 同ヲ圓形ニ振ル

停止 艦尾燈ヲ消ス

十二、閉塞線ニ接近シ後退ヲナストキハ汽笛長聲一ヲ發ス

十三、出入港等ニ要スル信號左ノ通り

P 旗 出港用意

各船ニ於テ揚錨了リタルヲ表示スル時モ此ノ旗ヲ用フ

W 旗 入港用意便宜投錨

C 旗 各船指揮集レ

B 旗 危険若クハ故障ヲ表示ス

十四、收容隊ハ翌朝收容セル人員ノ屬スル閉塞船ノ番號ヲ表示スルコト

第三節 第三回閉塞行動

第一目 閉塞ニ關スル命令

聯合艦隊ハ二月九日其ノ第一次攻撃ヲ旅順ノ敵艦隊ニ加ヘテヨリ四月十五日第八次攻撃ニ至ル迄日ヲ閲スルコト僅ニ二箇月餘ニ過キスト雖モ其

ノ間間接射撃ヲ以テ、敵ノ港内ヲ砲撃威嚇スルコト前後三回、運送船ヲ進メテ、港口ノ閉塞ヲ試ムルコト已ニ二回、或ハ敵ノ艦隊ヲ要塞下ニ攻撃シ、或ハ之ヲ港口ニ襲撃スル等、敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘ、殊ニ其ノ第七次攻撃ニ於テハ、機械水雷ヲ以テ、巧ニ敵ノ一戰艦ヲ轟沈シ、一戰艦ヲ傷ツケ、司令長官マカロフ中將以下將卒六百餘名ヲ殲シ、敵ヲシテ復容易ニ起ツ能ハサルニ至ラシム、而テ此ノ時ニ當リ、我カ第一軍ハ、漸次鳴綠江ノ左岸ニ達シテ、戰備將ニ成ラントシ、又七十餘隻ノ運送船ヨリ成ル第二軍第一次輸送船隊ハ、已ニ陸續大同江ニ集リ、四月三十日ヲ期シテ、其ノ全部ノ集合ヲ了ラントスル等、海陸ノ戰局共ニ著シク進捗シ、陸海軍協同作戰開始ノ時機漸ク將ニ近カラントス、是ニ於テカ東郷聯合艦隊司令長官ハ、第八次攻撃ヲ終リテ、根據地ニ歸ルニ及ヒ、第二艦隊ヲ分派シテ、專ラ浦鹽方面ノ敵ニ當ラシメ、第三艦隊ヲ海州邑方面ニ招集シ、自ラ第一、第三艦隊ヲ直率シテ、旅順方面ノ敵ニ當リ、曩ニ大本營ト協定シタル方針ニ準シテ、兵力ノ休養、物資ノ充實、前進根據地ノ探查、旅順港口ノ偵察等、諸般ノ準備ニ努メシカ、四月三十日ニ至リ、海陸ノ準備

完ク成リシヲ以テ、茲ニ第三回閉塞ヲ實行シテ、敵ノ主力ヲ旅順口内ニ窘塞シ、以テ輸送航路ヲ安全ナラシムルト同時ニ、遼東半島ニ第二軍ノ上陸ヲ開始センカ爲メ、同日左ノ聯合大作戰命令ヲ發セリ、

一、旅順ノ敵ハ固守ノ姿勢ヲ執ルモノ、如ク其ノ驅逐隊ノ小部ハ時々近海ニ出動スルノ情報アリ、又第一軍ノ鳴綠江ヲ渡ルハ今明ト豫定セラ

ル
浦鹽ノ敵ハ數日前元山津ニ現レタル後踪跡明ナラス、第二艦隊ハ之ニ對シ現下行動中ナリ

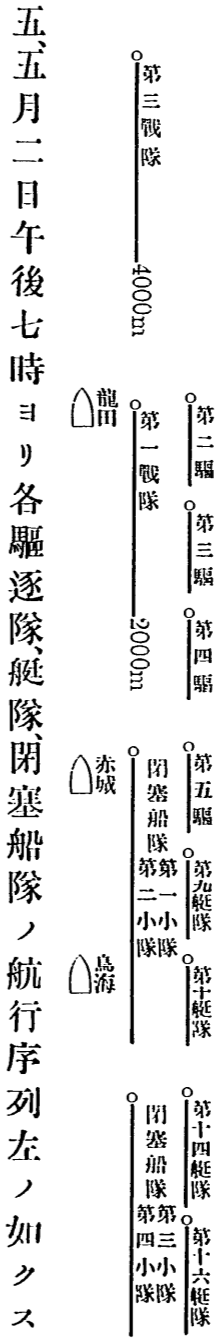
二、聯合艦隊ハ上命ニ基キ來五月四日第二軍ヲ鹽大灣ニ揚陸スルト同時ニ、同軍ト協力策應シテ遼東方面海陸ノ敵ニ對シ聯合大作戰ヲ開始セントス

曩ニ豫示シタル聯隊機密第三二九號第二軍輸送航行計畫書ニ未定ノ第二軍第一梯團大同江出發ノ第一日ヲ五月三日トス

三、第一艦隊(烏海熊野丸第十號十六艇隊ヲ加フ)ハ主トシテ旅順ノ敵ヲ直接壓迫シ、第三艦隊

(烏海熊野丸第十、第十六艇隊ヲ缺ク) ハ主トシテ第二軍輸送揚陸ノ掩護ニ任ス

四、第一戰隊、第三戰隊、赤城、島海、各驅逐隊、第九、第十、第十四、第十六艇隊及ヒ閉塞船隊ハ旅順閉塞及ヒ直接封鎖ノ目的ヲ以テ明五月一日午後五時出發別紙豫定航路圖ニ準シテ行動ス而テ五月二日午後七時迄ノ航行序列左ノ如シ(編者曰ク別紙豫定航路圖及ヒ其ノ他ノ附圖共別冊附圖ニ掲クルヲ以テ略ス)



五、五月二日午後七時ヨリ各驅逐隊、艇隊閉塞船隊ノ航行序列左ノ如クス

六、閉塞船隊ノ編制左表ノ如シ閉塞事業ノ計畫及ヒ實施ハ林島海艦長ニ一任ス

第一小隊	第二小隊	第三小隊	第四小隊
(一) 新發田丸	(五) 遠江丸	(八) 長門丸	(十二) 相模丸

(二) 小倉丸	(六) 釜山丸	(九) 小樽丸	(十三) 愛國丸
(三) 朝顔丸	(七) 江戸丸	(十) 佐倉丸	
(四) 三河丸			

七、五月二日午後七時天候旅順閉塞ニ適セサルトキハ旗信命令ニ依リ各戰隊及ヒ閉塞船隊ハ圖示避航路ヲ執リテ翌三日朝五馬島ノ東方ニ達シテ假泊シ龍田各驅逐隊及ヒ艇隊ハ海洋島ニ入り假泊シ更ニ三日正午頃ヨリ發動シ前日午後七時ノ地點ニ至リ此ノ行動ヲ續行ス

八、五月二日午後七時天候適良ナルトキハ各部隊ハ左記諸號ノ如ク行動スヘシ

(イ) 第二、第三驅逐隊ハ閉塞船隊ノ前方約五海里ヲ警戒シテ豫定航路上ヲ旅順ニ向ヒ前進シ途上敵ノ偵察艦驅逐隊等ヲ發見スルトキハ極力攻撃シ又旅順港前午前一時三十分ノ地點ニ達セハ老鐵山東角ノ南東約一海里ニ占位シテ閉塞事業ヲ掩護スルト同時ニ翌朝迄止リテ閉塞隊員ノ收容ニ從事スヘシ

(ロ) 第四第五驅逐隊ハ閉塞隊ノ先頭兩側約一海里ヲ警戒シテ前進シ閉塞船隊ニ近接セントスル敵驅逐艦等ヲ撃退シ又旅順港前午前一時三十分ノ地點ニ達セハ鮮生角ノ東南東約二海里ニ占位シテ閉塞事業ヲ掩護スルト同時ニ翌朝迄止リテ閉塞隊員ノ收容ニ従事スヘシ

(ハ) 各水雷艇隊ハ其ノ番號ノ順序ニ準ヒ第一小隊ヨリ第四小隊迄ノ閉塞船隊ノ右側ニ隨航竝進シ途上ノ危害ニ對シ各閉塞船ヲ護衛シ旅順港前午前一時三十分ノ地點ニ達セハ附圖第二ノ如ク占位シテ閉塞事業ヲ掩護シ且翌朝迄止リテ閉塞隊員ノ收容ニ従事スヘシ

但第十四艇隊ハ閉塞船隊闖入ノ時其ノ前方ヲ警戒シテ港口約一海里迄前進シ敵驅逐艦等出來ルトキハ極力攻撃シ閉塞船隊ノ前路ヲ開クヘシ

(ニ) 赤城及ヒ鳥海ハ各閉塞船隊ノ先頭左側ニ占位シ之ヲ護衛シテ前進シ旅順港前午前一時三十分ノ地點ニ達セハ單獨左側ニ出テ赤城ハ老鐵山ノ南方約二海里鳥海ハ鮮生角ノ東方約四海里ニ占位シテ閉

塞事業ノ掩護及ヒ閉塞隊員ノ收容ニ従事スヘシ

(ホ) 第三戰隊ハ圖示航路ヲ迂回シ三日午前六時頃旅順港外ニ達シ各驅逐隊及ヒ艇隊ヲ掩護スヘシ

(ヘ) 第一戰隊ハ圖示航路ヲ迂回シ三日午前八時旅順港外ニ達シ全隊ヲ掩護ス

但天候不適ノ爲メ豫定ヲ順延スルトキハ第一戰隊ハ四日午前五時U地點附近ニ達シ汽艇端舟ヲ第二軍上陸地點ニ送りタル後旅順港外ニ前進ス

九、各驅逐隊、艇隊ノ諸艦艇ハ夜中毎ニ其ノ「ヤーダーム」ニ(官名)(船名)ノ味方識別暗號ヲ掲ケ且閉塞ノ當夜ハ其ノ後部煙突一本ヲ石灰ニテ白塗シ彼我ヲ識別スヘシ(一本煙突ノモノハ此ノ限ニ非ス)

又閉塞船闖入ノ際敵砲撃ヲ開始スルトキハ各探海燈ヲ照シ牽制砲撃ヲナシ敵ヲ惑亂スヘシ

十、五月三日以後港口閉塞ノ成否ニ拘ラス夜間ハ驅逐隊及ヒ艇隊ヲ以テ

畫間ハ戰隊ヲ以テ附圖第二ニ圖示スル如ク全力ヲ擧ケテ直接封鎖ヲ強行ス

若シ時宜ニ依リ半力ニテ封鎖スルトキハ圖中艇隊ノ第一及ヒ第四哨區ヲ除キ之ニ代フルニ驅逐隊一隊宛ヲ充ツルモノトス

十一、大島ハ沖繩丸ヲ護衛シ五月二日午後出發五月三日午前八時頃海洋島ノ西方ニ至リ爾後沖繩丸ノ海底電線敷設事業ヲ掩護シ五月四日午前裏長山列島ノ北方ニ達シ次テ第七戰隊ト共ニ第二軍ノ揚陸ヲ掩護スヘシ

十二、春日丸、熊野丸ハ艦隊ニ續テ便宜出發五月二日、三日ハ海洋島泊地ニ五月四日ニハ光祿島ノ東灣ニ泊在スヘシ

十三、第一戰隊及ヒ第三戰隊擔任ノ擲索敷設實施ハ時宜ヲ見テ臨機命令ス

十四、第三艦隊ハ第二軍輸送揚陸ノ掩護ニ就キ港務部隊ハ防材敷設及ヒ掃海事業ニ就キ別ニ與ヘタル命令ニ依リ行動スヘシ

十五、聯合艦隊ハ裏長山列島掃海了ルノ後同地ニ前進根據地ヲ確立スル豫定ナリ其ノ時迄艦隊ノ臨時泊地ヲ光祿島ノ東灣トス

第四節 第三回閉塞

第一目 各部隊ノ發動

聯合艦隊ハ豫定ノ作戰計畫ニ從ヒ五月一日其ノ行動ヲ開始シ、第五、第六戰隊、第二、第六、第十二、第二十一艇隊ハ、大同江ニアル第七戰隊及ヒ第二十艇隊ト合同シテ、第二軍輸送艇隊護衛ノ爲メ、同日午前椒島錨地ニ向ヒテ出港シ、自餘ノ諸隊ハ、旅順口封鎖ノ目的ヲ以テ、閉塞船隊ヲ警衛シ、午後五時舳艫相銜ミテ海州邑錨地ヲ出發セリ、即チ出羽第一艦隊司令官ハ、第三戰隊(淺間、八ノ)ヲ率非テ先頭ニ位置シ、東郷聯合艦隊司令長官ハ、第一戰隊ヲ直率シ、四千米突ヲ距テ、第三戰隊ニ續行シ、閉塞船十二隻ハ、林總指揮官ノ乘船新發田丸ヲ先頭トシ、小倉丸、朝顔丸、三河丸、遠江丸、釜山丸、江戸丸、長門丸、小樽丸、佐倉丸、相模丸、愛國丸ノ順序ヲ以テ、第一戰隊ノ後方二千米突ニ從ヒ、第二、第三、第

四、第五驅逐隊ハ、第一戰隊ノ右側ニアリテ警戒シ、龍田ハ其ノ左側ニアリテ通信ノ任務ニ従事シ、又第九、第十、第十四、第十六ノ各艇隊ハ、閉塞船ノ右側ニ位置シ、赤城及ヒ鳥海ハ、其ノ左側ヲ掩護シ、豫定ノ航路ヲ取リテ旅順口ニ向ヒシカ、閉塞船ハ其ノ速力一致セサルノミナラス、往々八海里ノ原速力ニ堪ヘサルモノアリ、殊ニ新發田丸ハ、屢舵機ニ故障ヲ生シテ一時列外ニ出テ、又六番船釜山丸ハ、汽罐漏洩ノ爲メ他船ニ續行スルコト能ハス、爲メニ隊列大ニ亂レ、甚シク戰隊ヨリ遅ル、ニ至レリ、仍テ二日午前十時各隊ハ半速力トナシ、閉塞船隊ヲ集收整列シ、同日午後四時再八海里ノ原速ニ復ス、而テ釜山丸ハ一旦消火スルニアラサレハ、到底應急修理ノ見込ナキヲ以テ、海洋島ニ至リテ命ヲ待ツヘキ旨、龍田ヲシテ同船ニ傳ヘシメ、之ヲ閉塞船隊ヨリ除ケリ、

昨夕海州邑出發後、天候靜穩ニシテ海面鏡ノ如ク、二日拂曉濃霧ノ襲來ニ遭ヒシモ、少時ニシテ消散シ、航行ヲ阻碍スルニ至ラサリシカ、日出ト共ニ西北西ノ風次第ニ加ハリ、正午頃ニハ其ノ力四ニ達シ、波浪高クシテ水雷艇ノ如

キハ航行稍困難ヲ感スルニ至ル、此ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ、閉塞事業ノ困難ナルヲ慮リ、午後五時林總指揮官ニ對ヒ、其ノ意見ヲ尋ネシニ、同指揮官ハ風向キ北西ナルヲ以テ、旅順口ハ波浪靜穩ナルヘキヲ察シ、今夜閉塞ヲ決行スル決心ナル旨ヲ答へ、午後七時圓島ノ南東方ナル豫定地點ニ達ス、東郷聯合艦隊司令長官ハ、閉塞船隊ヲシテ第一戰隊ノ左側ニ竝進セシメ、豫メ成功ヲ祝ストノ信號ヲ掲ケ、第一、第三戰隊ノ各艦ハ登舷禮式ヲ行ヒ、以テ閉塞船隊ノ壯行ヲ送り、各隊豫定ノ針路ニ就ク、時ニ風波大ニ衰へ、天候回復ノ狀アリ、

第二目 閉塞前紀

新發田丸以下十一隻ノ閉塞船ハ、第一、第三戰隊ト分レテヨリ赤城、鳥海及ヒ驅逐隊、艇隊ニ掩護警衛セラレ、豫定ノ航行序列ヲ以テ、旅順口ニ向進セシカ、午後十時頃ニ至リ南方ノ風俄ニ力ヲ増シテ、洪波洶湧シ、暗雲月ヲ掩ヒテ海面爲メニ暗ク、各隊ノ序列漸ク紛亂シテ掩護艦艇ノ如キモ、或ハ閉塞船隊ト相失シ、各自旅順口ニ向ヒテ前進セリ、閉塞隊總指揮官林海軍中佐ハ、天候次

第二險惡ヲ呈シ、加フルニ風向キ我ニ不利ナルヲ見テ、收容事業ノ困難ニシテ徒ニ多數ノ人命ヲ損センコトヲ恐レ、當夜ノ閉塞行動ヲ中止セント決心シ、新發田丸ハ十時三十分速力ヲ緩メ、先ツ二番船小倉丸ヲ近ツケテ此ノ旨ヲ言令シ、同四十五分左轉シテ赤城ニ接近シ、信號ヲ以テ各隊ニ行動中止ノ旨ヲ傳達センコトヲ依囑シ、針路ヲ反轉シテ圓島ニ向ヘリ、然ルニ閉塞諸船ハ、風波ト暗夜トノ爲メ隊形ヲ保持スルコト難ク、此ノ時已ニ個々相分離シテ行動中止ノ命令ヲ全隊ニ通達スルコト能ハス、新發田丸ニ續行セシモノハ、僅ニ二三隻ニシテ、其ノ他ノ諸船ハ、相斷續シテ依然舊針路ヲ取り、旅順口ニ向ヒテ前進セリ、

閉塞船隊ノ掩護牽制竝ニ隊員收容ノ任務ヲ有セル各驅逐隊、艇隊ハ、三日正子頃ニ至リテ、風力愈増加シ、怒濤澎湃トシテ波浪上甲板ヲ超エ、船體ノ動搖甚シク、收容事業ノ或ハ不可能ナルヘキヲ察セシト雖モ、行動中止ノ通告ニ接セサルカ爲メ、同日午前一時頃ヨリ各隊逐次豫定ノ地區ニ進ミ、激浪ヲ冒シテ閉塞隊ノ侵入ヲ俟テリ、又閉塞船ノ前方ヲ警戒シ、港口ヲ偵察シテ其ノ

前路ヲ開クヘキ任務ヲ帶ヘル第十四艇隊ハ、同五十分港口ニ邁進シ、附近ヲ偵察中、偶敵ノ發見スル所トナリ、各砲臺ヨリ猛烈ナル砲撃ヲ受ケシモ、無事偵察ヲ終ヘテ、收容配置ニ就ケリ、而テ又赤城ハ、先ニ林閉塞隊總指揮官ヨリ天候不良ノ爲メ、今夜ノ行動ヲ取止ムル旨ヲ驅逐隊艇隊ニ傳達センコトノ依頼ヲ受ケ、先ツ之ヲ後續諸艦艇ニ傳ヘント欲シ、衝突ヲ避クルカ爲メ航海燈ヲ點シ、發光信號ヲナシツ、原針路ヲ逆航スルコト約一時間ニ及ヒシモ、更ニ船影ヲ認メサリシヲ以テ、同艦長海軍中佐藤本秀四郎ハ、閉塞船中或ハ突入ヲ決行シ、且驅逐隊艇隊モ既ニ豫定配置ニ就キタルモノアルヘキヲ推察シ、林總指揮官ノ意ヲ通スルノ傍ヲ、收容掩護ノ目的ヲ以テ、十一時五十分再旅順口ニ向ヒテ轉針セリ、

第三目 閉塞決行

前記ノ如ク林閉塞隊總指揮官ハ、天候不良ニシテ閉塞行動ニ不利ナルヲ思ヒ、行動ヲ延期セント決心シ、旨ヲ後續船ニ傳ヘ、圓島ニ向ヒ逆航セシカ、閉塞船分離セルカ爲メ、命令ヲ全般ニ通達スルコト能ハス、僅ニ海軍少佐福田昌

輝ノ指揮セル二番船小倉丸及ヒ海軍少佐田中銃郎ノ指揮セル八番船長門丸ノミハ、命令ヲ了シテ新發田丸ニ續行セシモ、其ノ他ノ諸船ハ、或ハ中止ノ命令ニ接セスシテ旅順口ニ向ヒ直進シ、或ハ一旦新發田丸ニ續行シタルモ、遂ニ相失シテ再旅順口ニ向ヘリ、而テ海軍少佐向菊太郎ノ指揮セル三番船朝顔丸ハ、一旦新發田丸ニ續行セシモノカ、或ハ速力衰ヘテ隊列ヨリ遅レタルモノカ詳ナラス、海軍大尉匝瑳胤次ノ指揮セル四番船三河丸ハ、新發田丸等ノ轉針シタル後、實ニ直進部隊ノ先頭ニ位置セリ、同船ハ戰隊ト分離シテヨリ以後、常ニ前續船ニ遅レ、汽機ノ全力ヲ盡スモ、尙之ニ追及スルヲ得ス、夜ニ入りテヨリハ、其ノ距離開大セルカ爲メ、閉塞船ト驅逐隊トノ燈火錯雜シテ、彼是ヲ區別シ難ク、又後方ヲ顧ミレハ、夜暗クシテ後續船ノ隻影ヲタニ認ムル能ハス、午後九時頃ニ至リテハ、全ク單獨トナリ、唯前方ノ燈火ノミヲ望ミテ豫定航路ヲ航進セシニ、十一時頃前方ノ燈光ヲモ見失フニ至リ、三日午初二時正北ノ針路ニ轉スヘキ豫定位置ニ達シ、船位ヲ測定シテ黄金山ノ南方約六海里半ノ位置ニ在ルヲ知り、直ニ豫定針路ニ轉セントセシモ、倭艦ト

相失シ、單獨突入ノ不利ナルヲ思ヒ、速力ヲ緩メテ回歸運動ヲナシツ、倭船ノ來ルヲ俟ツコト約二十分間ニ及ヒシカ、偶港口ニ方リテ砲聲ノ轟クヲ聞キ、前續諸船ノ既ニ闖入セルモノト思惟シ、意ヲ決シテ豫定闖入針路ニ入り、黄金山探海燈ヲ正北ニ見テ前進中、味方水雷艇ニ遭遇シ、前續船ノ既ニ侵入シタルヤヲ質シタルニ、未タ侵入セサル旨ノ答ヲ得、茲ニ始テ先ノ砲聲ハ、我カ偵察隊ニ對スル敵ノ砲火ナリシヲ知リシト雖モ、最早猶豫シテ引返スヘキ時機ニアラストナシ、全速力ヲ以テ決然港口ニ向ヒ驀進セリ、時ニ風波愈烈シク、敵ハ間斷ナク四基ノ探海燈ヲ旋轉照映シ、港口ノ哨艦モ亦探海燈ヲ點シ、警戒極テ嚴密ナリ、二時三十分頃ニ至リ、三河丸ハ遂ニ敵ノ探照發見スル所トナリ、兩岸ノ砲臺及ヒ哨艦ヨリノ砲擊猛烈ヲ極メ、大小砲彈ノ船體ニ命中スルモノ頗ル多ク、舷側破壊シ、器物粉塵シ、光景最慘憺タリ、同四十五分城頭山探海燈ヲ正西ニ見テ北々西ニ變針シ、港内ヨリ照ス二箇ノ探海燈ニ依リテ、港口ノ位置ヲ確認シ、之ニ向ヒテ直進シ、防材ヲ衝破スルコト二回ニ及ヒ、尙前進ヲ續ケシカ、探海燈ノ光ハ、眼ヲ眩シテ四周ノ陸影ヲ明ニ認ムル

コト難ク、既ニ水道内ノ好位置ニ達セルモノト確信シ、汽機ヲ停止シ、前部兩舷錨ヲ投下シ、船首ヲ約北西ニ向ケテ爆沈セリ、海軍大尉白石葦江ノ指揮セル十番船佐倉丸ト思ハル、一船モ、亦三河丸ニ續イテ港口ニ猛進シ、水道ニ近ツキ爆沈セリ、

是ヨリ先キ、海軍少佐本田親民ノ指揮セル五番船遠江丸以下ノ後續諸船ハ、或ハ先シ、或ハ遅レ、時ニ相合シ、相離レ、隊次錯雜シテ、旅順口ニ向進セシカ、天候益險惡トナリ、船體動搖烈シク、到底一致ノ行動ヲ採ルコト難キニ至ル、時ニ遠江丸ハ、尙其ノ番號位置ヲ保持シ、本田指揮官ハ、一番船ヨリ三番船迄ノ針路ヲ反轉シ、四番船三河丸ノミ依然前進ヲ續ツルヲ認メシト雖モ、未タ行動中止ノ命令ニ接セス、單ニ突入ノ時機尙早キノ故ヲ以テ反航スルモノト思ヒ、遠江丸ハ針路ヲ轉シテ嚮導船ニ從ヒ、東微南ニ航スルコト約三十分許ニシテ、數隻ノ閉塞船何レモ兩舷燈ヲ點出シ、隊次ヲ亂シテ集團セルカ如キニ會シ、衝突ヲ避ケンカ爲メ、少シク針路ヲ變セシ際、忽チ前續船ト相失シタルヲ以テ、前續船ノ既ニ轉針シタルヲ信シ、再西微北ニ向ヒ前續船ヲ追ヒシ

モ、汽力低落シテ一時高速力ヲ出ス能ハス、全ク單獨ノ状態トナリシカ、漸クニシテ前方ニ二箇ノ白燈ヲ發見シ、速力ヲ増シテ之ヲ追ヒシニ、敵探海燈ノ照映ニ依リ、其ノ一隻ハ、明ニ十一番船相模丸ナルヲ知り、從ヒテ他ノ一隻ハ、十二番船愛國丸ナラント推想シ、是ノ二船ニ續航セハ、其ノ沈置スル水雷ノ危険アルヘキヲ慮リ、之カ前方ニ出テント欲シ、益、速力ヲ増シテ遂ニ之ヲ追越セリ、又海軍大尉野村勉ノ指揮セル九番船小樽丸ハ、當夜閉塞中止ノ命令ニ接シ、二三僚船ノ反航スルヲ認メシモ、尙前方ニ二隻ノ閉塞船アルヲ見、之ニ隨從シテ前進ヲ續ケ、海軍少佐湯淺竹二郎ノ指揮セル十一番船相模丸ハ、當夜風浪烈シク各船モ亦多クハ相失シタルヲ以テ、或ハ行動中止ノ命令アルヤモ圖ラレスト思考シ、信號ニ注意シツ、前續船ニ續行セシニ、終ニ中止ノ令ニ接セサリシト云フ

海軍大尉高柳直夫ノ指揮セル七番船江戸丸ハ、戰隊ト分離シテヨリ後、全速力ヲ以テ前續船ヲ追ヘトモ常ニ遅レ勝チニシテ、自己ノ定位置ヲ保ツ能ハス、遂ニ前續船ト相失スルニ至リシカ、午後十一時頃反航スル二三ノ閉塞船

ニ會シ、何番船ナルヤヲ問ヒシモ、應答ニ接セス、尙前進セル中反航スルモノ次第ニ多キヲ認メ、左舷ニ轉舵シテ暫時東方ニ航進セリ、然ルニ此ノ時更ニ舊針路ヲ前進セル僚船アルヲ發見シ、再針路ヲ反轉シテ旅順口ニ向ヒ、右舷前方ニ方リ四箇ノ白燈ノ排列セルヲ認メテ其ノ後方ニ續行セリ、又海軍大尉犬塚太郎ノ指揮セル十二番船愛國丸ハ、午後十時半頃ニ至リ、前續船ノ若干ハ針路ヲ反轉シタルカ如ク、前方ニ方リ兩舷々燈ヲ認メ、且驅逐艦水雷艇ヲシキモノ、汽笛ヲ連吹シ、味方識別發光信號ヲナシツ、高聲ニ叫フヲ聞キシモ遂ニ其ノ意ヲ了スル能ハス、仍テ暫時前續諸船ノ行動ヲ窺ヒシニ、反航スルモノ多キヲ見、一旦左舷ニ回轉セシカ、猶旅順口ニ向ヒテ進ムモノアルヲ認メ、十一時半頃再針路ヲ反轉シテ、西微北ノ豫定航路ヲ前進セリ、閉塞船隊ハ、斯ノ如ク四分五裂ノ状態ニ陥リ、船隊番號ノ如キモ全然混亂スルニ至リシモ、遠江丸、小樽丸、相模丸、江戸丸及ヒ愛國丸ノ五隻ハ、自然ニ不規則ナル一團ヲ形成シ、相前後シテ旅順口ニ前進シ、三日午前二時半頃漸ク黃金山探海燈ヲ正北ニ見ルノ地點ニ達シ、港口ニ向ケテ變針セリ、時ニ遠江丸

小樽丸、相模丸ハ殆ト單縱陣トナリ、江戸丸ハ少シク右方ニ偏シ、愛國丸ハ少シク左方ニ偏シ、相竝ヒテ相模丸ニ續キ、尙他ノ一船列ノ左方ヨリ港口ニ直進シタルモノアリシカ如シ、時ニ港口ニ方リ、第二回ノ砲聲起リ、探海燈ノ射照内ニ閉塞船ノ突入スルヲ認ム、是ヨリ先キ愛國丸指揮官犬塚大尉ハ、隊列錯亂ノ爲メ後續船ノ危険ヲ慮リ、機械水雷ノ沈置ヲ取り止メ、之ヲ投棄スルニ決シ、水雷ノ深水索ヲ切斷シ、繫維索ノ解延ヲ止メ、裝藥口ノ「カバー」ヲ脱シテ、海水ノ浸入ヲ自由ニシ、電路内隔時裝置ヲ無効タラシメ、午前零時四十五分港口ノ南東微東約二十四海里(城頭山探海燈凡ソ北西微西之西)ノ海中ニ拋擲シ、相模丸モ亦港口附近ニ達スル以前ニ於テ、水雷ヲ投棄シタルカ如キモ、其ノ位置審ナラス、

是ノ如ク前記五隻ノ閉塞船ハ、遠江丸ヲ先頭トシ、各船各自港口ニ向ヒテ轟進セシカ、城頭山探海燈ヲ左舷正横ニ見ルノ頃、敵ノ發見砲撃スル所トナリ、大小ノ砲彈ハ或ハ水面ニ炸裂シ、或ハ頭上ニ爆發シ、舷ヲ貫キ、櫓ヲ折り、敷設水雷ハ各所ニ爆裂シ、爲メニ潮水奔騰シテ、其ノ壯烈凄慘ノ狀迥ニ前兩回閉

塞ノ時ニ超エ、隊員ノ死傷スルモノモ亦尠カラサリシカ、各船ハ毫モ屈セスシテ益奮進シ、遠江丸ハ敵ノ集彈ヲ受ケ、二門ノ機砲ハ發砲ノ時機ニ至ラスシテ破壊セラレ、船體ニ命中スル彈丸其ノ數ヲ知ラス、偶船橋ニ爆裂シタル一彈ハ、按針手海軍二等信號兵曹田中太郎吉ヲ傷ツケタルヲ以テ、本田指揮官ハ代リテ自ヲ操舵ノ職ニ當リ、已ニ進ミテ探海燈ノ射照界ヲ過キ、今ヤ全速力ヲ以テ港口ニ突入セントスル際、敵彈命中シテ遂ニ汽罐汽笛ヲ破リ、蒸氣迸逸シ、前櫓ヲ折り、舵機ヲ損シ、羅針儀ヲ粉碎シ、光景實ニ慘烈ヲ極ム、此ノ時船ハ恰モ坐礁シタルカ如ク突然停止シテ前進セス、是ニ於テ本田指揮官ハ、既ニ充分水道内ニ達セルヲ確信シテ爆發ヲ令シ、船ハ瞬時ニシテ沈没シ了レリ、次テ進ミシ小樽丸及ヒ相模丸モ、亦防材ヲ衝破シテ前進シ、小樽丸ハ三河丸ノ直前ニ出テ、船首ヲ約北西ニ向ケ、老虎尾半島ニ近ク投錨爆沈シ、相模丸ハ佐倉丸ノ傍ニ於テ、船首ヲ約北東ニ向ケテ爆沈セリ、又愛國丸ハ港口ノ中央線上ヲ邁進中、水道入口ノ手前約七鏈ノ位置ニ於テ、敵ノ敷設水雷ニ罹リ、汽機室及ヒ汽罐室ノ中央ヲ爆破セラレ、運轉自由ヲ失スルニ至リタル

ヲ以テ、犬塚指揮官ハ、其ノ位置ニ爆沈セント決心シ、投錨ヲ令スルヤ否ヤ、浸水急激ニシテ爆破ヲ行フノ暇ナク沈没セリ、次ニ江戸丸ハ、城頭山探海燈ヲ正西ニ望ミ、港口ニ向ヒ變針セントスル際、左舷船首數十米突ニ、愛國丸ヲシキ一船ヲ認メタルヲ以テ、既ニ水雷ヲ沈置シタルヤヲ質シタレトモ、應答明ナラス、依テ其ノ後方ニ續行スルノ危険ナルヲ虞リ、之カ前方ニ出テント欲セシモ、速力及ハス、已ムヲ得ス、危険ヲ冒シテ其ノ後方ニ續行中、該船ノ俄然爆發沈没スルヲ見タリ、時ニ又右舷前方ニ方リ、敵ノ猛撃ヲ冒シテ邁進セル一船ヲ認メ、再之ニ續行セル際、一彈船橋ニ命中シ、指揮官高柳大尉爲メニ戰死シタルヲ以テ、指揮官附海軍中尉永田武次郎之ニ代リ、愛國丸ノ西方ニ於テ、之ト相竝ヒテ船首ヲ港口ニ向ケ爆沈セリ、時ニ午前四時ニ近キカ如シ、又總指揮官林中佐ハ、行動中止ヲ命令シツ、圓島ニ向ヒテ引返セシカ、二三後續船ノ續行シ來レル外、他ノ諸船ハ依然トシテ舊針路ヲ前進シ、閉塞ニ向ヒタルカ如キヲ以テ、三日正子頃再針路ヲ反轉シ、若シ閉塞船ノ闖入スルモノアレハ直ニ侵入スルノ決心ヲ以テ、速力ヲ増シ、捷路ヲ取り、城頭山探海燈

ヲ西北西ニ望ミテ急航セリ、此ノ時一船ノ續行シ來レルモノアリシモ、速力ニ差異アリシカ爲メカ、少時ニシテ之ヲ見失フニ至ル、三日午前二時港口ニ方リ、砲火ノ閃々タルヲ認メタルモ、僅ニ數分時ニシテ止ミタルヲ以テ、是我カ偵察隊ニ對スル敵ノ砲火ナルヲ知り、尙前進ヲ續ケ、同三十分城頭山探海燈ヲ距ルコト約五海里ノ地點ニ達セシ頃、敵ノ砲聲再起リ、且閉塞船ノ侵入スルヲ認メタルヲ以テ、直ニ突入ノ諸準備ヲ整ヘ、港口ニ向ハントスル際、舵機ニ故障ヲ生シ、船首回轉シテ圈ヲ畫キ、進退自由ナラス、依テ汽機ヲ停止シ、舵機ノ故障ヲ檢シ、僅ニ應急ノ處置ヲ施シ得タルモ、時已ニ五時ニ近ク、東天白ヲ帶ヒ、侵入ノ時機ヲ失シタルヲ以テ、遂ニ其ノ念ヲ絶チ、沖合ニ向ヘリ、是ヨリ先キ、三番船朝顔丸ハ、最初新發田丸ニ續イテ圓島ニ向ヒシカ、諸船ノ閉塞ヲ決行スルヲ見テ、再針路ヲ轉シ、單獨閉塞ニ向ヒタルモノ、如ク、午前四時過クル頃、同船ハ忽焉トシテ鮮生角ノ南方ニ出現シ、直路港口ニ向ヒテ邁進セリ、此ノ時ニ方リ、三河丸外六隻ノ閉塞船ハ、既ニ悉ク爆沈シ了リ、敵ノ砲火ハ今ヤ專ラ隊員ノ退路ヲ扼シ、砲聲稍弛マントシケルカ、敵ハ朝顔丸ノ

突進スルヲ發見スルヤ、砲聲再熾烈トナリ、全要塞ノ砲彈ハ、忽チ此ノ一船ニ集中シ、船ノ四周ハ水煙ヲ以テ鎖サル、朝顔丸ハ此ノ猛烈ナル十字砲火ニ屈セス、探海燈ノ又照ヲ冒シテ奮進シ、遂ニ舵機ヲ破ラレタルナランカ、黄金山低砲臺下ノ海岸ニ擱坐シテ爆發セリ、是ノ時凡ソ四時三十分ニシテ、之ヲ最後ノ闖入船トナス、

抑今回ノ閉塞行動タル、其ノ計畫前二回ニ比スレハ甚タ大ニシテ、諸般ノ設備規約等モ亦大ニ完備セシト雖モ、閉塞船ノ多クハ速力遲緩ニシテ、靜穩ナル晝間ニ於テスラ、八海里ノ速力ニテ、尙其ノ隊次ヲ整頓スルコト甚タ難キノ状態ナリシカ爲メ、若シ夜間強烈ナル風浪ニ遭遇センカ、其ノ隊次ヲ維持スルコト更ニ一層ノ困難ニシテ、錯亂分離ヲ來スハ到底免レサル所タリ、二日夕刻戰隊ト分離ノ際ニ於テ、閉塞船ノ多クハ已ニ其ノ順序ヲ前後シ、夜ニ入りテハ益、甚シク、總指揮官ノ中止命令モ之ヲ全隊ニ通達スルコト能ハス、遂ニ豫定ノ如キ秩序アル行動ヲ爲スヲ得ス、各船各自ノ運動ヲ執リテ閉塞ヲ決行スルニ至レリ、而テ閉塞ヲ決行セル諸船モ、其ノ乗員全部ノ戰死若ク

ハ行衛不明トナリタルモノ尠カラズ、從ヒテ各船ノ行動、闖入ノ順序、及ヒ時刻等ノ如キモ、其ノ詳細ヲ知ルニ由ナク、唯僅ニ生還セシ指揮官ノ報告、竝ニ當時敵ニ收容セラレタル生存者ノ旅順口陥落後陳述セルモノ等ヲ綜合シタルモノナレハ、或ハ其ノ記事ノ正鵠ヲ失スルナキヲ保スル能ハス、殊ニ佐倉丸及ヒ朝顔丸ノ行動ニ至リテハ、一人ノ生存者ナキヲ以テ、遂ニ全ク其ノ眞狀ヲ知ルヲ得ス、

第四目 閉塞隊員ノ引上始末

二日午後十時頃ヨリ俄ニ吹キ起リタル強烈ナル南風ハ、漸次其ノ力ヲ増シ、終ニ閉塞隊總指揮官ヲシテ行動中止ヲ令セシムルニ至リシカ、不幸ニシテ其ノ命令全隊ニ通セス、三河丸ノ闖入ヲ先頭トシ、朝顔丸ノ爆沈ヲ最後トシ、閉塞ヲ決行セシモノ前後八隻ニ達シ、其ノ乗員ノ味方艦艇ニ收容セラレシモノ僅ニ四隻分ニ過キカルノ慘狀ヲ呈セリ、三日午前一二時ノ交ニ至リテハ、風力愈強ク、其ノ力六乃至七ニ達シ、怒濤狂奔シテ上甲板ヲ侵シ、舷側ニ吊下セシ退去用端艇ノ如キハ、激浪ノ爲メニ奪ハル、ニ至リシモ閉塞隊員ハ

砲彈ヲ冒シ、風浪ヲ凌キ、前續船ニ倣ヒテ一意港口ニ突進セリ、先頭ニ進ミシ三河丸ハ、猛烈ナル敵彈ニ浴シ、命中彈甚タ多ク、四等機關兵峯谷常次郎ハ、指揮官傳令ニ從事中、艦橋ニ在リテ戰死シ、其ノ他下士卒六名重輕傷ヲ負ヒ、已ニ船體ノ爆發ヲ終リ、端舟ヲ卸サントセシニ、豫テ退却用ニ準備シタル右舷側ノ端舟ハ、敵彈ノ爲メニ破壊セラレ、左舷側ノモノハ、「ボートホール」切斷シテ降スコト能ハス、纔ニ殘存セル最小ノ端舟一隻ヲ卸シ、死傷者ヲ援ケテ總員十八名之ニ移乗シ、本船ヲ離レテ沖合ニ向ハントセシニ、港口ニ在リシ哨艦艇ノ追撃ヲ受ケ、且兩岸ノ堡壘ヨリ大砲小銃ノ急射ヲ蒙リ、加フルニ前方ニハ防材ノ横ハレルノミナラス、艇ハ激浪ニ翻弄セラレテ操縦意ノ如クナラス、進退殆ト谷リシカ、辛ウシテ防材ノ切目ヲ發見シ、百難ヲ排シテ沖合ニ出ツルヲ得タリ、遠江丸ハ本船ノ突然停止スルヤ、本田指揮官ハ坐礁シタルモノト思惟シ、爆發及ヒ退去ノ準備ヲ命セシカ、六隻ノ端舟悉ク敵彈ニ破ラレ、又一隻ノ完全ナルモノナク、仍テ外形ノ稍正シキモノヲ擇ヒテ之ヲ用意セシメ、爆發ヲ令シ、負傷者六名ヲ助ケテ端舟ニ移乗シ、人員ヲ調査セントセ

シニ、乗員ノ多クハ砲聲ノ爲メ耳聾シ、指揮官モ亦鼓膜ヲ損シテ彼我ノ聲通セス、且本船沈没ノ勢急ニシテ、遂ニ人員ヲ精査スルノ暇ナク、指揮官ノ乗艇セシ時ニハ、本船已ニ上甲板ヲ水ニ浸セリ、斯クテ刀ヲ以テ「ボートホール」ヲ切斷シ、本船ヲ離レントカムレトモ、先ニ坐礁セシト思惟セシ本船ハ、其ノ實防材ニ衝突シタルモノニシテ、今ヤ船首ヲ西方ニ向ケ、激浪正横ヨリ來リテ端舟ヲ壓シ、加フルニ端舟ハ水既ニ滿チ、一意排水ニ努メタルモ其ノ効ナシ、然レトモ幸ニシテ「エーヤケースドボート」タリシカ爲メ、纒ニ覆没ヲ免レタルト、後續船ノ突入ノ爲メ敵彈ヲ受クルコト尠カリシトニ依リ、辛ウシテ、沖合ニ向フヲ得タリ、此ノ時一隻ノ端舟ニ數名ノ乗艇セルモノアリテ、沖合ニ向フヲ認メシカ、是終ニ行衛不明トナリシ一等水兵森下淺次郎外二名ナリシカ如シ、

又愛國丸ハ敵ノ敷設水雷ニ罹リ、運轉ノ自由ヲ失スルニ至リシヲ以テ、犬塚指揮官ハ陸岸ニ擱坐センヨリハ、寧ロ此ノ位置ニ於テ爆沈スルニ如カスト決心シ、汽機ヲ停止シ、投錨ヲ令セリ、此ノ時ニ至ル迄、指揮官ハ單ニ砲彈ノ命

中シタルモノト信セシニ、投錨スルト同時ニ、船尾已ニ沈没シ始ムトノ報告ニ接シ、茲ニ始テ水雷ノ爆發ニ遭ヒタルモノナルヲ知り、直ニ總員ニ退去ヲ命シ、人員ヲ檢セントセシモ、海水已ニ上甲板ニ奔入シ來リテ端舟ヲ卸スノ暇サヘナク、僅ニ端舟ノ「ボートホール」ヲ切り離スノ際、本船ハ忽チ海中ニ没入シ、其ノ速ナルコト殆ト一分時ヲ出テス、船橋及ヒ上甲板ニアリシ乗員ハ船ト共ニ一旦海中ニ沈ミ、再ヒ浮上リタルヲ以テ、之ヲ收容シ、人員ヲ檢セシニ全員十六名ヲ數ヘ得シノミ、猶八名ノ不足アリシニ依リ、之カ搜索ニ勉メタレトモ、波高クシテ發見スル能ハス、此ノ不足セシ兵員ハ、何レモ指揮官附海軍中尉内田弘ト共ニ乗船スヘキ配置ニ在ルモノナリシニヨリ、或ハ同官ト共ニ他ノ端舟ニテ退去シタルヤモ圖ラレストノ望ミヲ持シ、遂ニ沖合ニ退出セシカ、内田中尉ヲ始メ海軍中機關士青木好次、外下士卒六名ハ、全ク其ノ行衛ヲ失セリ、又江戸丸ハ既ニ港口附近ニ達シ、高柳指揮官ハ船橋ニ在リテ、投錨用意ヲ令シ、羅針儀ニ倚リテ方位ヲ測定セル際、敵彈ニ腹部ヲ貫カレテ戰死シ、指揮官附永田中尉ハ、時ニ前甲板ニ在リテ、投錨作業ヲ監督シ、投錨

ノ令ヲ俟チシニ、一彈轟然トシテ船橋ニ命中スルト同時ニ、船橋ヨリ指揮官云々ノ聲ヲ耳ニシタルヲ以テ、指揮官ノ死傷セシヲ推知セシモ、今ヤ同船ハ好位置ニ在リテ、船橋ニ赴クノ猶豫ナキヲ思ヒ、直ニ兩舷錨ヲ投下シ、退去用意ヲ命シ、端舟ノ準備ヲ命ス、然レトモ退去ノ用ニ供セゾトセシ端舟ハ、悉ク敵彈ニ中リ破損シタルヲ以テ、比較的完全ナル最小ノ端舟一隻ヲ用意セシメ、始テ船橋ニ赴キシニ、高柳指揮官ノ果シテ戰死セルヲ發見シ、其ノ遺骸ヲ端舟ニ乗セ、總員乗艇ヲ終リ、人員ヲ檢シ、欠員ナキヲ見テ、裝藥ヲ爆發シ、總員祝聲ヲ擧ケテ退去ノ途ニ就ケリ、然ルニ端舟ノ破口ヨリ浸入スル海水ハ次第ニ其ノ量ヲ増シ、遂ニ「スウォールト」ヲ侵シテ「ガンズル」ニ達セントシ、兩岸ヨリ發射スル機砲、速射砲ノ彈丸ハ、急霰ノ如ク艇側ニ落下セシカ、辛ウシテ端舟ノ損所ヲ發見シ、外套上衣ノ類ヲ以テ破孔ヲ填塞シ、死力ヲ盡シテ排水ニ從事セシカハ、浸水著シク減スルニ至ル、同船ハ高柳指揮官、海軍一等機關兵武藤彌七郎戰死シ、下士卒三名重輕傷ヲ負ヘリ、其ノ他ノ閉塞船朝顔丸、小樽丸、佐倉丸、相模丸ノ四隻ハ、當時其ノ乗員我カ艦

艇ニ收容セラレタルモノナク、全ク行衛不明ニ屬セシカ、旅順開城ノ際ニ至リ、小樽丸、相模丸ノ乗員若干名ハ、俘虜トナリテ生存セルヲ發見シ、其ノ陳述ニ依リ、畧兩船ノ最後ヲ知ルコトヲ得タリ、即チ野村少佐ノ指揮セシ小樽丸ハ、既ニ港口ニ進ミ、適當ト思惟スル位置ニ達シタル後、指揮官ハ汽機ヲ停止シ、爆沈ノ用意ヲ命シ、總員ヲ上甲板ニ集メテ人員ヲ檢セシニ、海軍一等機關兵影山鹿之助ノ負傷セルノミニシテ、其ノ他全員ノ無事ナルヲ認メ、指揮官ハ爆發ヲ令シ、總員萬歳ヲ三唱シ、直ニ退却艇ヲ卸サントセシカ、一番艇ハ敵彈ノ爲メ已ニ海中ニ墜落シタルヲ以テ、更ニ三番艇ヲ卸シテ、一同之ニ移乘シ、指揮官附海軍中尉笠原三郎ハ、再人員ヲ檢セシニ、指揮官野村大尉及ヒ水兵二名ノ在ラサルヲ發見シ、大聲ヲ發シテ之ヲ呼ヒシモ答ナク、時ニ本船ハ已ニ上甲板迄浸水シタルヲ以テ、遺體ナリトモ收容セント欲セシニ、激浪ノ爲メ遂ニ發見スルコト能ハス、且端舟モ敵彈ノ爲メ破損シテ浸水甚シク、毛布等ヲ破孔ニ挿入シ、總員全力ヲ竭シテ排水ニ努ムト雖モ、更ニ其ノ効ナク、到底航行ニ堪フルノ見込ナシ、時ニ偶傍ニ浮流セル他ノ端舟ヲ發見シ、笠原

中尉等激浪ヲ潛リ泳キテ之ヲ檢セシニ、是亦損傷大ニシテ使用ニ適セス、此ノ間大小彈丸ノ飛來スルコト雨ノ如ク、負傷スルモノ尠カラザリシカ、互ニ勇ヲ鼓シ、破艇ヲ操縦シテ沖合ニ向ヒ、撓漕スルコト約一時間ニ及ヒシモ、浸水ト激浪トノ爲メ、艇ノ進行意ノ如クナラス、忽チ狂濤ノ横ニ艇ヲ打ツト共ニ、浸水ノ滿チタル破艇ハ、遂ニ轉覆シテ、乗員十五名怒濤ノ間ニ漂フニ至リ、海軍大機關士岩瀬正以下下士卒數名人事不省ノ裡ニ、翌朝敵軍ニ收容セラレ、又相模丸ハ港口防材ヲ衝破シ、湯淺指揮官ハ、最早充分水道ノ中央ニ闖入シタルモノト確信シ、投錨ヲ令シテ爆發ノ用意ヲナシ、總員ヲ退去ノ位置ニ整列セシメ、本船ノ確實ニ成功シタル旨ヲ告ケ、一同萬歳ヲ連呼シ、退去ノ端舟ヲ半降シタル際、一彈飛ヒ來リテ「ボートホール」ヲ切斷シ、艇首ヲ破壊シタルヲ以テ、更ニ第二ノ端舟ヲ卸シ、一同之ニ乘艇セシカ、此ノ端舟モ亦敵彈ノ爲メニ破損シテ海水浸入シ、損處ヲ檢スレトモ、容易ニ發見スル能ハス、此ノ時指揮官湯淺大尉及ヒ指揮官附海軍中尉山本親之等ハ、尙船橋ニ止リテ爆發ニ從事シ、後兩部ノ爆發ヲ終リタル後、直ニ端舟ニ移乗シ、極力本船ノ舷側

ヲ離レントセシモ、風浪横ニ端舟ヲ壓シテ、兩舷相撃チ離ル、能ハス、哨艦竝ニ兩岸ノ砲壘ヨリハ、機砲小銃等ノ一齊射撃ヲ受ケ、死傷續出シテ、危急愈、迫リ、總員死カヲ出シテ、脱出ニ努ムト雖モ、艇ハ已ニ滿水シテ操縦意ニ任セス、本船沈没ノ一瞬時、其ノ旋渦ノ爲メニ轉覆シ、乗員多クハ艇底ニ取り付キタルモ、再艇ヲ起スコト能ハス、遂ニ本船ノ煙突ト通風筒トノ間ニ挾マレ、今ヤ策ノ施スヘキナキニ至リ、敵ノ探照砲撃ハ、益急ニシテ負傷スルモノ多ク、且連ニ激浪ニ洗ハレテ次第ニ乗員ノ數ヲ減シ、湯淺指揮官以下多クハ戰死シ、翌朝敵ニ收容セラレシモノ、海軍二等兵曹河野精藏以下數名ニ過キス、而シテ佐倉丸及ヒ朝顔丸兩船ノ乗員ニ至リテハ、一名ノ生存者タニナク、終ニ其ノ最後ノ狀況ヲ繹ヌルニ由ナシト雖モ、惟フニ小樽、相模兩船ト同一ノ狀況ニ陥リタルカ如シ、尙閉塞ノ翌日負傷セル一大尉敵ニ收容セラレ、直ニ死亡シタルモノアルカ如キモ、其ノ何人タリシヤヲ詳ニセス、

狂瀾怒濤ヲ冒シテ決行シタル第三次閉塞隊員ノ最後ハ、實ニ悽愴慘烈ヲ極メ、閉塞ヲ決行セシ八隻ノ乗員百五十八名ノ中、其ノ夜我カ收容隊ニ救助セ

ラレシモノ、僅六十七名(内戦死四名、負傷二十名)ニシテ、翌朝敵ニ收容セラレシモノ十七名(内一名死亡)其ノ七十四名ハ、遂ニ行衛不明トナレリ、抑今次ニ於ル敵ノ防禦ハ、前二回ニ比スレハ固ヨリ猛烈ニシテ、又巧妙ナリシト雖モ、之ヲ諸報告ニ徴スレハ、本船爆沈以前ニ於ル死傷者ハ、各船ヲ通シテ比較的少数ニシテ、三河丸ニ戦死一名、重傷二名、輕傷四名、江戸丸ニ戦死二名、重傷一名、輕傷六名、愛國丸ニ輕傷四名、行衛不明八名、遠江丸ニ重傷一名、輕傷六名、行衛不明三名ニシテ、又相模丸及ヒ小樽丸ハ、爆沈當時何レモ僅ニ一名ノ負傷者アリシニ過キス、然ルニ退去ニ際シテ、斯ク多大ノ損害ヲ被ルニ至リタルハ、一ハ其ノ夜ノ天候ト、一ハ端舟ノ破壊トニ基因スルモノニシテ、敵彈ノ爲メニ受ケタル損害ハ、比較的輕微ナリシト謂フ可シ、

後明治三十八年十一月ニ至リ、我カ海軍ニ於テ旅順口白玉山西麓ナル舊露國墓地ヲ發掘シテ、第三次閉塞隊員ノ遺骸ヲ檢セシニ、朝顔丸ノ乗員十八名、中指揮官向大尉ヲ始メ、指揮官附海軍中尉系山貞次、機關長海軍大機關士清水雄菟、以下十四名ノ柩ハ、相接シテ埋葬セラレアルヲ發見セシヨリ考フレ

ハ、右十四名ハ、一處ニ集合シテ戦死シタルモノ、如シ朝顔丸乗員ノ外白石大尉以下佐倉丸乗員九名、湯淺少佐以下相模丸乗員三名、笠原中尉以下小樽丸乗員六名、其ノ他ニ氏名不詳ノ海軍々人七名ノ遺骸(内中尉一名、大機關士一名)ヲ發掘セシカ、何レモ已ニ腐爛シテ其ノ容貌ヲ識別シ難カリシト雖モ、或ハ彈痕ヲ留ムルモノアリ、或ハ縋帶ヲ施セルモノアリ、或ハ腹部ニ麻索ヲ縛著シテ浮流セル屍體ヲ引上ケタルカ如キモノアリ、一見慘憺トシテ奮戦ノ狀ヲ想起スルニ足レリ、而テ當時敵軍ニ收容セラレタル人員ハ、小樽丸機關長岩瀬大機關士、小樽丸乗員下士卒七名、相模丸乗員下士卒九名ニシテ、岩瀬大機關士ハ、閉塞ノ當夜頭部ニ負傷シ、爾來健康ヲ害シ、遂ニ三十七年十月十九日旅順海軍病院ニ於テ病死シ、他ノ十六名ハ、旅順開城ノ際我カ軍ニ收容セリ、

第五目 掩護收容隊ノ行動

閉塞船隊ヲ掩護シ、且其ノ乗員ヲ收容スヘキ任務ヲ有セル赤城、鳥海及ヒ各驅逐隊、艇隊ハ、二日午後七時第一、第三戰隊ト分レ、豫定ノ航行序列ヲ以テ、閉

塞船隊ヲ掩護シツ、旅順口ニ向ヒ前進セシカ、十時頃ヨリ南方ノ勁風俄ニ起リ、怒濤狂奔シテ驅逐艦、水雷艇ノ如キハ、船體ノ動搖甚シク、加フルニ海面暗黒ナリシヲ以テ、掩護諸隊ノ多クハ閉塞船ト連絡ヲ失シ、各自豫定ノ哨區ニ向ヒテ前進セリ、

閉塞隊闖入ノ際、其ノ前方ヲ警戒シテ港口約一海里迄前進シ、敵ノ驅逐艦等出テ來ルトキハ、極力攻撃シ、以テ閉塞船隊ノ前路ヲ開クヘキ任務ヲ有セル第十四艇隊ハ、二日午前更ニ東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、今夜侵入ノ時港外ニ前進シ、防材敷設シアルヲ發見セハ、直ニ閉塞船隊ニ通告スヘシ、トノ命令ヲ受ケ、同隊司令海軍少佐櫻井吉丸ハ、千鳥、隼ヲ以テ第一小隊トシ、第一艇隊ヨリ臨時編入セラレタル第七十號第六十七號兩艇ヲ以テ第二小隊トシ、三日午前零時三十分閉塞船隊ト分レテ港口ニ進ミ、一時五十分港口ヲ距ル約三鏈ノ位置ニ至リテ敵情ヲ偵察シ、將ニ沖合ニ退カントスル際、敵ノ發見スル所トナリ、各砲臺ヨリ猛烈ナル砲撃ヲ受ケシモ、損害ナク、砲臺及ヒ探海燈ニ向ヒ應砲シツ、豫定ノ收容配置ニ就キシカ、敵ハ尙發砲ヲ續ケ、二時二十

分一彈第六十七號艇ノ後部司令塔ニ命中爆裂シ、後部ノ砲坐ヲ損シ、卒二名負傷セリ、同艇ハ此ノ時僚艇ト相失セシカ、同三十分頃四番閉塞船三河丸ノ港口ニ向ヒテ侵入スルヲ見、其ノ右側ヲ掩護シテ再港口ヨリ六七鏈ノ位置迄前進シ、收容位置ニ歸ラントスル時、一彈右舷ノ舷側ヲ貫通シテ汽機室内ニ炸裂シ、汽機及ヒ發電機ヲ破損シ、汽機室ニ在リシ海軍上等機關兵曹古川伊衛及ヒ下士一名漏電ニ感シテ、人事不省トナリ、汽機ノ運轉ヲ停止スルニ至ル、此ノ時復一彈右舷側ニ命中シ、附近ニ落下スル敵彈甚タ多カリシカ、同五十五分僚艇第七十號艇ノ來リ救フニ會シ、之ニ曳カレ、辛ウシテ沖合ニ退却セリ、又千鳥及ヒ隼ハ、閉塞船ノ猛火ヲ冒シテ續々突進スルヲ見、港口ヨリ一海里乃至一海里半ノ位置ニアリテ、乗員ノ收容ニ努メシカ、閉塞船ノ既ニ殆ト爆沈ヲ終ルヤ、敵ハ收容艇ニ向ヒテ其ノ砲火ヲ轉シ、四時三十分頃嶗岬嘴及ヒ黄金山ノ探海燈ニ又照セラレテ、激烈ナル十字砲火ヲ蒙リ、隼ハ四時十五分愛國丸ノ乗員十六名ヲ、同五十五分遠江丸ノ乗員十五名ヲ、敵彈集落ノ下ニ各收容シ、千鳥ハ五時三分江戸丸ノ乗員ヲ收容シテ一時敵彈ヲ南方

ニ避ケタリ、此ノ收容中、準乗組海軍三等兵曹西田辰次敵彈ニ中リテ戰死ス
時ニ天漸ク白ク、海面稍明ナルニ至リ、附近ヲ搜索セシモ、遂ニ復端舟ノ影ヲ
認メス、

第十艇隊ハ、三日午前一時三十分頃、豫定ノ哨區ニ就キ、更ニ前進シテ二時頃、
黄金山探海燈ヲ距ル約二海里半ニ達セシトキ、敵ハ我カ偵察隊ニ向ヒテ猛
烈ナル砲火ヲ開始シ、偵察隊モ亦之ニ應戰セルヲ認メタルヲ以テ、敵ヲ牽制
センカ爲メ、嘯岬嘴探海燈ニ向ヒテ十數彈ヲ發射セシカ、少時ニシテ偵察隊
退却シ、次テ閉塞船隊ノ闖入爆沈スルヲ見、益、港口ニ近ク前進シ、激浪ヲ凌キ
テ隊員ノ搜索ニカムル中、屢敵ノ探照砲火ヲ蒙リ、二番艇第四十二號艇ハ、水
面炸裂彈ノ破片ニヨリ、輕微ノ損害ヲ受ケシモ、乗員ニ死傷ナシ、殿艇第四十
一號艇ハ、四時三十分頃、黄金山ノ南方約一海里ノ位置ニ於テ、探海燈ノ閃照
ニ依リ、一隻ノ端舟ヲ發見シ、直ニ之カ救助ニ赴ク、怒濤舷ヲ超エ、艇體動搖烈
シク、榴霰彈ノ艇上ニ爆裂スルモ、數發ニ及ヒシモ、幸ニ損害ナク、三河丸ノ
乗員十八名ヲ收容シ、天明ニ及フ迄、擧隊尙端舟ノ搜索ニカメタレトモ、遂ニ

復得ル所ナシ、第九艇隊ハ、閉塞船隊ノ先頭ト竝航シテ旅順口ニ向ヒシ途次、
二日午後十一時頃、一番閉塞船ノ針路ヲ反轉シ、他ノ一隻ハ尙前進ヲ續クル
ヲ認メテ之ト竝進シ、三日午前一時三十分頃、豫定ノ哨區ニ向ヒテ變針シ、二
時三十分頃ヨリ、數隻ノ閉塞船猛烈ナル敵ノ砲火ヲ冒シテ港口ニ闖入スル
ヲ認ム、此ノ時嘯岬嘴探海燈ハ、同船隊ヲ照映シ、砲臺ヨリハ盛ニ榴霰彈ヲ發
射シ、彈片ハ艇ノ四周ニ雨下シ、頗ル危険ヲ極メタリ、四時過キ朝顔丸ト思ハ
ル、閉塞船一隻東方ニ現レ、同隊ノ南方ヲ航過シテ港口ニ嚮進スルヤ、敵ハ
忽チ猛烈ナル砲火ヲ以テ之ヲ迎ヘ、其ノ狀慘憺タリ、是ニ於テ同艇隊ハ敵ヲ
牽制センカ爲メ、嘯岬嘴探海燈ノ南東約一海里半ノ位置ヨリ、同探海燈ニ向
ヒ發砲セシニ、白銀山砲臺之ニ應砲セリ、同三十分頃收容線ノ内方ニ方リテ
一端舟ヲ發見シ之ニ向ヒタルニ、第十艇隊ノ一隻已ニ收容ニ赴キタルヲ見
テ、引返サントスル時、再黄金山探海燈ニ照サレ、猛射ヲ受クルコト約十分間
ニ及ヒ、蒼鷹ハ彈片ノ爲メ前部煙突ヲ傷ケシモ損害甚シカラス、各艇尙收容
線ニ止リテ、端舟ノ搜索ニカメタレトモ、遂ニ發見セス、仍テ風浪ノ爲メ、閉塞

隊員ハ、南方ニ退却スルコト困難ニシテ、或ハ陸岸ニ沿ヒテ鮮生角方面ニ向ヒタルモノアラシコトヲ慮リ、鮮生角西岸附近ヲ搜索セシモ、亦一ノ端舟ヲ見ス、再南東方ニ向ハントスル際、時既ニ天明ニ近ツキ、探海燈ノ光漸ク薄ク、海陸ノ狀況稍判明スルニ至リシカハ、各砲臺齊シク收容隊ニ向ヒテ急射撃ヲ始メ、殊ニ嘯嘴砲臺ハ、其ノ照準極テ正確ニシテ、悉ク艇側附近ニ集弾シ、一彈忽チ蒼鷹ノ汽機室ニ命中シ、左舷機高壓汽筒蓋ヲ破碎シタル後、上甲板ニ出テ、海軍一等水兵川原喜助ヲ殪シ、他ノ一彈ハ、兩舷汽機室、スカイライトドーアヲ左舷ヨリ右舷ニ貫通シ、上甲板ニアル木製水函ヲ貫キ、猶他ノ一彈片ハ、前罐室右舷石炭庫ノ水線下約一呎ノ所ヲ貫キテ浸水スルニ至ル、是ニ於テ雁及ヒ鴿ハ、直ニ之カ救助ニ赴キ、蒼鷹ハ應急修理ヲ施シ、右舷機ヲ以テ單獨彈著距離以外ニ出ツルヲ得タリ、第十六艇隊ハ、三日午前一時五十分豫定ノ哨區ニ達シ、各艇黄金山探海燈ニ面シ、單横陣ヲ制リテ漂泊セシカ、少焉ニシテ第十四艇隊ニ對スル敵ノ砲撃ヲ認め、次テ閉塞船三河丸ノ港口ニ突進スルヲ見、更ニ前進シテ各艇探海燈ヲ點シ、城頭山探海燈ニ向ヒテ牽制

砲撃ヲ行ヒシニ、敵ハ直ニ之ニ應砲シ、巨彈艇側ニ雨注セリ、三時二十分頃數隻ノ閉塞船相前後シテ突入スルヲ認め、再牽制運動ヲ行ヒシモ、敵ハ閉塞船ノ砲撃ニ急ニシテ應砲セス、依テ牽制運動ヲ止メ、一意閉塞隊員ノ端舟ヲ發見スルニ力メ、風浪ヲ冒シ、蛇行運動ヲナシツ、漸次港口ニ接近セシモ、風潮不利ナリシ爲メカ、黎明ニ至ル迄、一隻ノ端舟モ、此ノ方面ニ來ルモノアルヲ發見セス、

閉塞船ノ突入爆沈セシモノ已ニ前後八隻ニ及ヒ、隊員收容ノ任ニアル各艇隊ハ、怒濤ヲ凌キ、敵彈ヲ冒シテ收容ニ從事シ、三河丸、遠江丸、江戸丸、愛國丸ノ乗員ヲ收容シ得タリト雖モ、未タ他ノ四隻ノ乗員ヲ收容スルコト能ハサルカ故ニ、黎明ニ至ル迄、尙近ク港口ニ止リテ搜索ニ從事セシモ、他ニ一隻ノ端舟ヲタニ發見スル能ハス、加フルニ敵ハ天明ト共ニ收容艇ヲ猛撃シ始メタルヲ以テ、各隊ハ已ムヲ得ス、南方ニ航下シ、千鳥隼及ヒ第四十一號艇ハ、收容シタル閉塞隊員及ヒ死傷者ヲ淺間ニ移シ、午前八時過キ各隊相次テ第一戰隊ニ合シ、命ニ依リ光祿島東灣ニ向ヒ、又先ニ敵彈ニ傷ツキタル第六十七號

艇ハ、應急修理ヲ施セシモ結果充分ナラス、僚艇第十七號艇ニ曳カレテ、母艦所在地タル海洋島ニ向ヘリ、

又閉塞船隊ノ前方ヲ掩護シテ前進セシ第二、第三驅逐隊ハ三日午前三時頃、第四、第五驅逐隊ハ一時三十分頃、各豫定ノ哨區ニ達シ閉塞船ノ突入ニ對シテ敵ヲ牽制シ、黎明ニ至ル迄、隊員ノ收容ニ從事セシモ、各隊共ニ一ノ端舟ヲ發見セス、八時三十分頃第三戰隊ニ合セシカ出羽第一艦隊司令官ヨリ、收容事業ヲ續行スヘキ命ヲ受ケ、再港口ニ近ツキ、敵彈ヲ冒シテ搜索ニカメタレトモ、亦遂ニ得ル所ナク、午後一時三十分頃ヨリ、各隊相次テ第一戰隊ニ合セリ、又鳥海ハ艦長林中佐閉塞隊總指揮官トシテ不在ナルヲ以テ、第三艦隊參謀海軍中佐岩村團次郎艦長代理トシテ、赤城ト共ニ閉塞船隊ノ左側ヲ護衛シ、三日午前一時三十分頃豫定ノ位置ニ達シ、天明ニ至ル迄、閉塞船隊ノ掩護收容ノ任ニ服シ、五時四十五分港口ヲ距ル六海里ノ地點ニ引揚ケタルニ、六時第四十一號艇近ツキ來リ、其ノ收容セシ閉塞隊重傷者ノ治療ヲ要求セシヲ以テ、端艇ヲ卸サントセシモ、艦ノ動搖甚シク、ダビット轉動シテ屢危險ニ瀕

セシカハ、同艇モ亦其ノ事業ノ困難ナルヲ察シ、自ラ之ヲ謝絶シテ第三戰隊ニ向ヒ去レリ、又赤城ハ二日午後十時半頃、林中佐閉塞隊總指揮官ヨリ、行動中止ノ旨ヲ各隊ニ傳ヘンコトヲ依頼セラレ、之カ通達ニ從事セル中、旅順港口ニ方リ砲聲ノ殷々タルヲ聞キ、己ニ閉塞ノ實行セラレタルヲ信シ、豫定ノ位置ニ進ミテ掩護收容ニ從事セシモ、一ノ端舟ヲ發見セス、三日午前六時過キ、南東ニ方リ迥ニ新發田丸ノ漂泊セルヲ認め、之ニ向ヒテ航行中、第三戰隊ト會合セリ、

第六目 閉塞ノ成果

釜山丸ヲ除キ十一隻ヨリ成レル閉塞船隊ハ、天候不良竝ニ速力不平等ノ爲メ隊列混亂シ、豫定ノ規約ニ從ヒテ闖入スルヲ得ス、而テ十一隻中新發田丸ハ、一旦行動ヲ中止シタル後、再開塞ニ向ヒタルモ、舵機故障ノ爲メ侵入ノ時機ヲ失シ、長門丸、小倉丸ハ總指揮官ノ命令ニ從ヒテ閉塞ニ加ハラズ、突入ヲ決行シタルモノハ、朝顔丸、三河丸、遠江丸、佐倉丸、小樽丸、江戸丸、愛國丸ノ八隻ニシテ、内四隻ノ乗員ハ、全部行衛不明トナリ、當時其ノ行動ヲ知ルヲ得ザリ

シモ、五月五日、六日ノ兩日、第一、第三兩戰隊カ港外ヨリ望見シタル所ト、收容セラレシ閉塞船指揮官等ノ報告ニ基キ、各閉塞船ノ沈没概位ニ關シ、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、大本營ニ報告セシ所左ノ如シ、

(前略)三河丸ハ人字牆砲臺ノ西方ニ方リ、水道ノ中央ニ船首ヲ北々西ニ向ケ、煙突ノ上端ヲ少シク現シテ沈没シ、三河丸指揮官匝磋大尉ノ報告ニ依レハ、爆沈ノ際其ノ位置水深六尋ナリシト、又相模丸若クハ小樽丸ト思ハル、モノハ、黄金山ノ西岸ヨリ約半鏈港口燈臺ノ北東約一鏈半ノ位置ニ於テ航路線ヲ少シク右ニ避ケ、煙突ノ上部三分ノ一許ヲ現シ、船首ヲ約北微東ニ向ケ沈没ス、遠江丸ハ前記相模丸(若クハ小樽丸)ノ外方港口ノ狹部ニ於テ、尖岩ノ東北東約一鏈ニ在リテ船首ヲ西微北ニ向ケ、煙突ノ上端少許ヲ出シ、前櫓ヲ失ヒテ沈没ス、此ノ閉塞船ハ港口通路ノ右方過半ヲ閉塞セリ、又江戸丸ハ前記遠江丸ノ外方約四分三鏈尖岩ノ東微南約一鏈ニ位シ、尖岩ニ船首ヲ向ケ、煙突ノ上端ヲ少シク現シテ沈没ス、港外正面ヨリ見ルトキハ、此ノ閉塞船ハ港口ノ中央ニ在ルカ如クナルモ、南東ヨリ見レハ遠江丸

ノ左ニ見ユ、南西ヨリ望メハ其ノ右ニ見ユ、是其ノ外方ニ沈没スルカ爲メナリ、右四隻ハ第二次閉塞ニ於テ港口燈臺ノ西北約一鏈ト思ハル、處ニ、船首ヲ西ニシテ沈没セル米山丸ト相待テ港口ノ通路ヲ塞キ、少クモ大艦ノ出入ヲ不自由ナラシムヘシ、尙他ニ小樽丸若クハ相模丸ノ内一隻港口ニ入りタルハ、第十四艇隊司令ノ認メタル後ニシテ、港外ヨリハ其ノ殘影ヲ見ル能ハサルモ、或ハ船體ノ全部ヲ没シテ好位ニ爆沈シアルノ望アリ、又佐倉丸ト思ハル、モノハ、港口燈臺ノ正南約一鏈四分ノ一ニ櫓一本ヲ殘シテ沈没シ、愛國丸ハ尖岩ノ南東約二鏈ニテ敵ノ敷設水雷ニ罹リ全ク沈没シタルハ、此ノ二隻モ港外ノ航路ニ餘程ノ障害トナルヘシ、(下略)

然ルニ我カ軍ノ旅順口占領後、同地鎮守府ニ於テ實測セシ所ニ依レハ、今次ノ閉塞船ハ、何レモ水道ノ入口ヨリ三鏈以上ノ沖ニ沈没シ、一隻ノ水道内ニ闖入セルモノアルヲ見ス、即チ各指揮官等ノ報告ト、稍一致ヲ缺クモノアルカ如シト雖モ、八隻ノ閉塞船中、敷設水雷ニ罹リテ沈没シタル愛國丸、防材ニ支ヘラレテ爆沈シタル遠江丸、及ヒ黄金山下ニ擱岸シタル朝顔丸ノ三隻ヲ

除クノ外、他ノ五隻ハ、何レモ指揮官自ラ好位置ト確信シタル上自沈シタル
 モノニシテ、其ノ水道内ニ闖入セサリシハ、全ク爛々タル探海燈ノ眩惑ニ依
 リ、視力衰ヘテ港外ト水道トノ視別難カリシニ因ルモノト謂フヘシ、而テ佐
 倉丸及ヒ相模丸ハ、前回ノ閉塞船彌彦丸、福井丸、千代丸、仁川丸等ト相待チテ
 港口ノ約右半ヲ塞キ、三河丸及ヒ小樽丸ハ、敵ノ自ラ沈メタル「ハルボン」ハイ
 ラル」ノ兩船ト共ニ港口ノ左方ヲ塞キ、又遠江丸、江戸丸、愛國丸ハ港口ヲ距ル
 コト稍遠カリシト雖モ、港口ノ中央線上ニ沈没シタレハ、港口ノ水路ハ著シ
 ク狹窄セラレ、殊ニ第二回閉塞船米山丸ハ、港口最狹部ノ左方約三分ノ一ヲ
 閉塞シ居タルヲ以テ、港口ノ出入ハ極テ困難トナレリ、各船ノ沈没位置左ノ
 如シ、

船名	港口燈臺ノ方位	同上距離	船首方向	記	事
小樽丸	北微西	約三 鏈	北西微西	最港口ニ近ク又最左方ニ位置ス	
三河丸	北微西	三 鏈	北西	小樽丸ト殆ト一線上ノ沖ニ在リテ共ニ 港口ノ左方ヲ塞ク	
愛國丸	北々西	七 鏈	東	港口ノ中央線上	
遠江丸	北々西	五 鏈	西微南	港口ノ中央線上	

第七目 閉塞後紀

第三戰隊ハ、二日午後七時閉塞船隊ト分レテ後、豫定ノ針路ヲ經テ、三日午前
 五時三十分旅順港外ニ達シ、老鐵山ノ南方ニ當リ、新發田丸ノ漂泊セルヲ發
 見シ、距岸約十海里ノ位置迄進ミシモ、靄霧深クシテ陸影ヲ認ムル能ハス、六
 時頃ヨリ、各驅逐隊、艇隊及ヒ赤城等相次テ來會ス、又新發田丸ヨリ舵機破損
 シテ操縦シ難ク、修理ヲ要スル旨ノ信號アリシヲ以テ、出羽司令官ハ、赤城ヲ
 シテ之ニ修理終リ次第直ニ海洋島ニ赴クヘキ命ヲ傳ヘシメシカ、同船ハ依
 然トシテ漂泊セルニ依リ、更ニ高砂ニ向ヒ、新發田丸ノ舵機ヲ檢シ、修理ノ見
 込ナケレハ、海洋島ニ曳航スヘキヲ命セリ、八時十分赤城再來リ、林閉塞隊總
 指揮官ヨリ、昨夜天候不良ノ爲メ行動中止ヲ令セシモ、命令全般ニ達セス、依

江戸丸	北々西微西	七 鏈	北西微北	港口ノ中央線上ニアリテ愛國丸ト約 三 鏈 ヲ距ツ
佐倉丸	北西	三 鏈	北西	
相模丸	北西微西	四 鏈	西	千代丸ニ仁川丸等ト共ニ港 口ノ右半ヲ塞ク
朝顔丸	西微北	七 鏈	北西	黄金山低砲臺直下ニ擱岸

テ新發田丸ハ今朝三時再港外ニ達シ、他船ト共ニ侵入セント欲セシニ、舵機故障ノ爲メ、目的ヲ果サ、リシ旨ノ報告ヲ傳ヘ、新發田丸曳航ノ必要ナキヲ以テ、高砂モ亦列ニ入ル、是ヨリ先キ、午前七時三十分第四十一號艇、千鳥隼來リテ、三河丸、遠江丸、江戸丸、愛國丸ノ乗員ヲ收容シ、何レモ重傷者アル旨ヲ告ケタルヲ以テ、出羽第一艦隊司令官ハ、淺間ニ命シテ列ヲ解キ、閉塞隊員ヲ收容セシメ、又赤城ヲシテ鳥海ヲ率非、海洋島ニ赴カシム、八時四十分收容艦艇悉ク來會セシモ、前記四隻ノ乗員ノ外、他ニ收容セラレタルモノナキヲ知り、各驅逐隊ニ命シテ、尙收容ヲ續行セシメ、九時正東ニ變針シ、次テ第一戰隊ノ東方ヨリ來ルヲ認メテ之ニ合セリ、

又東郷聯合艦隊司令長官ハ、第一戰隊ヲ率非、豫定ノ航路ヲ執リテ旅順口ニ向ヒシカ、二日午後九時頃ヨリ、南風強ク吹キ始メ、海面波荒クシテ、第二軍輸送船舶ノ航海困難ナルヘキヲ慮リ、三日午前六時八島ヲ椒島ノ西約七海里（M地點）ノ處ニ急派シテ、椒島錨地ニ在ル片岡第三艦隊司令長官ニ對シ、風波荒キヲ以テ、其ノ地ノ豫定行動ヲ順延シ、又此ノ旨ヲ軍司令官ニ傳フヘキ旨

ヲ電報セシメ、自餘ノ諸艦ヲ率非、九時旅順港外ニ達シテ、第三戰隊等ト會合シ、前夜ノ行動ニ關スル各隊ノ報告ヲ受領セリ、仍テ同三十分各水雷艇隊ニ命シ、光祿島ノ東灣ニ至リテ命ヲ俟タシメ、戰隊ハ港外ヲ漂航シテ、收容ニ洩レタル閉塞隊員ノ搜索、竝ニ港口ノ視察ニ努メタレトモ、濛氣密ニシテ微ニ山影ヲ見得ルニ過キス、午後一時三十分頃ヨリ、閉塞隊員ノ搜索ニ赴キタル各驅逐隊、漸次歸リ來リシモ、各隊共ニ得ル所ナシ、仍テ東郷聯合艦隊司令長官ハ、之ヲシテ光祿島ニ歸ラシメ、第一、第三戰隊ヲ率非テ、三時三十分海洋島ニ向ヒ、旅順港ヲ去リ、四時十五分遇岩附近ニ於テ、二隻ノ端舟ノ浮流セルヲ發見シ、朝日及ヒ富士ヲシテ之ヲ檢セシメシニ、何レモ甚シク破壊シテ乗員ナク、一ハ佐倉丸ノモノニシテ、一ハ船名明ナラサレトモ、亦閉塞船ノモノナルカ如シ、其ノ他此ノ附近ノ海面閉塞船ノ器物ト思ハル、漂流物甚タ多ク、各艦ニ令シ、解列漂泊シテ、之カ收容ニカメシムルコト約一時間、五時四十二分再前進ヲ起シ、七時二十分左舷ニ小倉丸ヲ認メ、命シテ海洋島ニ赴カシメ、翌四日午前一時三十分、第三戰隊ヲシテ分レテ長子島ノ西南西約四海里ノ

地點(T 地點)ニ至ラシメ、第一戰隊ハ海洋島ノ東南東約七海里ノ地點(S 地點)ニ向ヒ、同日午後七時三十分、光祿島ノ東灣ニ投錨セリ、越エテ五月七日、第三回旅順口閉塞ニ對シ聯合艦隊司令長官東郷平八郎ニ、左ノ勅語ヲ賜フ、

聯合艦隊ハ三タヒ旅順口閉塞ノ壯舉ヲ行ヒ猛激ナル敵ノ抵抗ヲ排シ其目的ヲ達セリト聞ク

朕倍ス其事ニ與リシ將校下士卒ノ忠烈ヲ嘉ス

右勅語ニ對シ、東郷聯合艦隊司令長官ハ、左ノ奉答文ヲ捧ク、

旅順口閉塞ノ舉ニ對シ三タヒ優渥ナル

勅語ヲ賜ハリ臣等感激ニ堪ヘス今ヤ作戰其局面ヲ大ニシ海上ノ任務益

加重ヲ覺ユ臣等愈奮勵全局ノ大捷ヲ收ムルニ勗メ以テ

聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス

右謹テ奏ス

第五節 旅順ノ敵狀

聯合艦隊ノ第一次攻撃以後、深ク港内ニ退嬰シテ一意修理ニ努メタル旅順ノ敵艦隊ハ、三月上旬新司令長官マカロフ海軍中將ノ著任シテヨリ以來、其ノ銳意熱心ナル督勵ト、勇往果敢ナル行動トニ依リ、漸次艦艇ノ戰鬥力ヲ回復スルト共ニ、士氣モ亦大ニ振興シ、今ヤ戰艦「レトウ非ザン」「ツエザレウ非チ」巡洋艦「バルラーダ」ノ外ハ、何レモ戰鬥ニ堪ヘ得ル迄ニ其ノ修理ヲ完成シタルカ如ク、三月十日我カ第五次攻撃ヲ爲スニ方リ、マカロフ司令長官ハ其ノ全艦隊ヲ率非テ出港シ、要塞下ニ據リテ我ニ對シ、其ノ後時々艦隊ノ一部ヲ率非テ、渤海灣方面ヨリ廟島列島附近ヲ游弋シ、中立國船舶ヲ臨檢スル等暗ニ示威運動ヲナセシカ、二十六日朝大欽島附近ニ於テ、我カ汽船繁榮丸(大阪新聞社雇船ニシテ排水量七五噸)ヲ捕獲シテ、其ノ乗員邦人十名、支那人七名ヲ拘留シ、船體ヲ擊沈セリ、(船長及水夫二名ハ船内ニ潛ミテ捕獲シ、芝罘ニ逃レ歸レリ)二十七日我カ第六次攻撃ニ際シ、マカロフ司令長官ハ、再其ノ艦隊ヲ率非テ出港セントセシニ、戰艦「ペレスウエー」ト「ハ戦艦」セロストーポリ「ノ舷側ニ衝突シ、セロストーポリ」ハ爲メニ舷側

ヲ破損シ、ペレスウエートモ亦其ノ艦首ヲ曲ケタリト云フ、同日兩艦ノ出港ヲ見サリシハ、蓋之ニ因ルモノナランカ、越エテ四月十二日夜同司令長官ハ、我カ艦隊ノ廟島列島附近ニ遊弋シツ、アリトノ情報ニ接シ、直ニ驅逐艦八隻ヲ出港セシメテ、之ヲ搜索襲撃スヘキヲ命セシカ、此ノ夜細雨霏々トシテ天暗ク、遂ニ其ノ一艦、ストラーシヌイハ僚艦ト相失シ、翌朝ニ至リテ單獨歸港ノ途次、我カ驅逐隊ノ要撃スル所トナレリ、マカロフ司令長官ハ此ノ報ニ接スルヤ、直ニ「バヤーン」ニ命シテ、之カ救援ニ赴カシメ、次テ自ラ艦隊ヲ率非テ出港セシカ、其ノ旗艦「ペトロパヴロウスク」ハ、前夜沈置シタル我カ機械水雷ニ罹リテ沈没シ、マカロフ中將モ亦戰死セリ、同時ニ他ノ戰艦「ポベーダ」モ我カ機械水雷ニ傷ツキ、漸ク回復セント、セシ敵ノ戰鬥力ハ、茲ニ再多大ノ損害ヲ蒙リ、殊ニ司令長官ノ戰死ハ、海陸共ニ敵軍ノ士氣ヲ沮喪セシメタルコト甚シク、旅順艦隊ヲ如何ニセントノ歎聲ヲ發スルモノアルニ至レリ、マカロフ司令長官ノ戰死シタル後、絶東太守アレキセイエフ大將ハ、臨時太平洋艦隊司令長官ノ職ヲ兼ネ、四月十五日其

ノ將旗ヲ戰艦セワストーポリニ掲ケシカ、十六日黒海海軍司令長官海軍中將ニコライ、イルラリオノウヰチ、スクルイドロフ、更ニ太平洋艦隊司令長官ニ任セラルトノ電報アリ、開戦以來敵ノ艦船ハ、自國機械水雷ノ爲メニ破損沈没スルモノ尠カラサリシカ、此ノ頃ニ至リテハ、又同水雷ノ旅順沿岸竝ニ其ノ近海ニ浮流スルモノ漸ク多ク、三月三十日ニハ、一個ノ水雷陸岸ニ打ち揚ケラレタルヲ發見シ、之ヲ倉庫ニ運搬セントスル際、轟然爆發シテ運搬ニ從事セシ兵員十一名ヲ粉碎シ、又四月二十五日ニハ、露國汽船「ノンニ」號、青泥窪ヨリ旅順口ニ回航ノ途中、北三山島ノ西方約四分一海里ニ於テ、曾テ同船長自身ノ沈置シタル機械水雷ニ觸レテ沈没セルモノ、如ク、次テ二十七日アレキセイエフ太守ハ、「ペトロパヴロウスク」沈没ノ位置ヲ視察セシカ爲メ、汽艇ニ乗シテ港外ニ出テ、高速力ヲ以テ駛走中、幾ト機械水雷ニ觸レントシテ、纒ニ免レ、直ニ之カ捜海ヲ命セシニ、海軍大尉ベルナルモノ下士卒二十名ヲ率非テ之ニ從事中、水雷俄然爆發シテ、同大尉以下下士卒全部戰死スルニ至レリト云フ、又敵艦艇ノ現狀ニ關シテハ、諸種ノ情報頗ル一致ヲ缺キ、其

ノ正確ナル状態ヲ知ル能ハスト雖モ、要スルニ四月下旬ニ於テ、戦艦レトツ
非ザン同ツエザレツ非チ及ヒ同ボベータハ、未タ修理ヲ完了セズ、其ノ備砲
ノ一部ハ、之ヲ陸上砲臺ニ移シ、巡洋艦バルラーダハ、四月中旬漸ク船渠ヲ出
テタルカ如ク、水雷敷設艦アムールハ、三月三十日港外ニ出テントシテ、我カ
閉塞船ノ一ニ觸レ、艦底ヲ破損シテ修理ニ著手シ、其ノ他驅逐艦數隻モ、亦修
理中ニアリト云フ、

陸方面ニ在リテハ、増援隊ノ來著セルアリテ、之ト共ニ漸次其ノ防禦部面ヲ
前進擴張シ、數千ノ農民ヲ驅役シテ、西ハ雙頭灣方面ヨリ水師營北方ニ至ル
迄、盛ニ防禦工事ヲ施シ、東ハ小平島及ヒ大小孤山等ニ假設砲壘ヲ築キ、旅順
ヨリ大連灣ニ至ル間ノ沿岸各所ニ見張ヲ設ケテ、監視哨兵ヲ配置シ、老鐵山
頂及ヒ其ノ西方山腹ニハ、新ニ路ヲ造リテ六尹砲ヲ曳キ上ケ、鳩灣方面ニハ、
新砲臺ヲ築造シ、尙浦鹽斯德ヨリ小銃ヲ取り寄せ、之ヲ從來無銃ナリシ要塞
砲兵ニ交附シ、且其ノ中隊人員ヲ増加スル等、頻ニ防禦ノ經營ニ努メ、一面ニ
ハ一時工事ヲ中止シタル旅順大船渠ノ如キモ、マカロフ中將著任以來日ニ

二千八百人ノ人夫ヲ役シテ、再其ノ開鑿ヲ始メタリト云フ、而テ先ニ旅順要塞司
令官ニ補セラレタル、陸軍少將コンスタンチン、スミルノフハ、三月十七日旅
順ニ著シ、又第三軍團長陸軍中將アナトール、ミハイロウ非チ、ステセルハ、同
月二十七日ヲ以テ、旅順及ヒ金州防禦總督ニ任セラレタリ、之ヲ要スルニ旅
順ノ敵狀ハ、其ノ海軍ノ頻繁ナル變災アルニ反シ、陸方面ニ於ル防禦ハ、日ニ
益、完全ノ域ニ向ヒツ、アルモノ、如シ、